

ユーザーズガイド

Norton
AntiVirus²⁰⁰¹TM

このマニュアルで説明するソフトウェアは、使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができます。

著作権

Copyright © 1995 -2000 Symantec Corporation. All Rights Reserved.

このマニュアルの一部または全部を許可なく複写することはできません。

商標

Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus は Symantec Corporation の米国における登録商標です。LiveUpdate は Symantec Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT は Microsoft Corporation の登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

Printed in Ireland.

10 9 8 7 6 5 4 3 2 1

ご注意

シマンテックは、お客様が本使用許諾契約の内容にすべて同意される場合にかぎり、お客様がこのソフトウェアを使用することを許諾します。ソフトウェアを使用又はインストールすると、本使用許諾契約に同意したものと見なされますので、その前に本使用許諾契約をよくお読みください。お客様が本使用許諾契約の内容に同意されない場合、シマンテックは、お客様が同封のソフトウェアを使用することを許可いたしません。その場合には、お買い上げ後60日以内に、ご購入を証明するものを添えて、お買い上げ店に購入商品をすべてお戻しください。引き換えに、ご購入代金を払い戻しいたします。

使用許諾契約および保証

本使用許諾契約の対象となるソフトウェア(以下、単に「本ソフトウェア」といいます)は、シマンテックおよび本ソフトウェアの使用許諾権者の所有物であり、著作権法によって保護されています。シマンテックは本ソフトウェアの所有権を引き続き保持しますが、本使用許諾契約に同意したお客様に、本ソフトウェアの一定の使用権を設定します。本使用許諾契約が許諾補遺条項によって修正される場合を除き、設定される本ソフトウェアの使用権は以下の通りです。

許諾事項

- (1) 本ソフトウェアのコピーを1つだけ、1台のコンピュータで使用すること。
- (2) 本ソフトウェアのコピーをバックアップの目的で1つだけ作成すること。または、本ソフトウェアをコンピュータのハードディスクにコピーし、オリジナルのフロッピーディスクをバックアップの目的で保管すること。
- (3) 本ソフトウェアをネットワーク上で使用すること。ただし、ネットワークを介して本ソフトウェアを使用できるすべてのコンピュータが、本ソフトウェアの使用を正式に許可されている場合に限りです。
- (4) シマンテックに対する書面による通知の後、本ソフトウェアを他人(法人を含む)に永久的に譲渡すること、ただし、譲り受け人が本使用許諾契約に同意した場合にかぎりです。

禁止事項

- (1) 本ソフトウェアに付属しているマニュアルなどの文書をコピーすること。
- (2) 本ソフトウェアの一部または全部を問わず、再使用許諾、貸与、または、リースをすること。
- (3) リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、修正、翻訳、または、本ソフトウェアのソースコードを調べる行為をし、もしくは、本ソフトウェアから派生品を制作すること。
- (4) 本ソフトウェアのバージョンアップ用の記録媒体または以前のバージョンとそっくり置き換えられる新バージョンを受け取った場合に、その後も本ソフトウェアの以前のバージョンまたはそのコピーを使用すること。ただし、以前のバージョンを何らかの慈善団体に寄付する場合で、その慈善団体が寄贈された製品の唯一のエンド・ユーザーになること、および本使用許諾契約に従うことに書面によって同意している場合は、このかぎりではありません。本ソフトウェアのバージョンアップの際に、以前のバージョンをこのような方法で寄贈しないかぎり、以前のバージョンのすべてのコピーは破棄しなければなりません。

保証の限定

シマンテックは、本ソフトウェアの引き渡しから60日間にわたって、本ソフトウェアの供給媒体に瑕疵がないことを保証します。この保証内容に違反する事態が生じた場合、お客様の唯一の救済方法として、シマンテックは保証期間内に返送を受けた瑕疵のある媒体の代品を提供するか、本ソフトウェアのご購入代金の払い戻しをいたします。ただし、どちらの方法を採るかはシマンテックが決定するものとします。シマンテックは本ソフトウェアがお客様の要望にかなうものであること、本ソフトウェアの操作に障害が発生しないこと、および、本ソフトウェアの内容に誤りがないことを保証するものではありません。

上記の保証がシマンテックの行う保証のすべてであり、商品価値を有すること、お客様の特定の目的にかなうこと、および、法律違反・権利侵害が存在しないことを含む明示的、黙示的の一切の保証に代わるものです。上記の保証は、お客様に特定の法的権利を付与しますが、国によっては、法律でお客様にその他の権利が与えられることがあります。

損害賠償の免責

本記載の救済方法によりその目的が達成できるかどうかにかかわらず、シマンテックは、特別損害、偶発的損害、間接損害、または、これに類似する損害に対する一切の責任を負いません。そのような損害には、本ソフトウェアの使用またはその使用不能により生じたお客様の得べかりし利益の喪失やデータ消失も含まれます。そのような損害が生じる可能性についてシマンテックが以前から警告を受けていたとしても、損害に対する責任をシマンテックが負うことはありません。

国によっては、上記のような偶発的、間接的な損害に対する責任の限定または免除を認めていないことがあります。お客様がそのような国にお住まいの場合は、上記の責任限定・免責規定は適用されないことがあります。

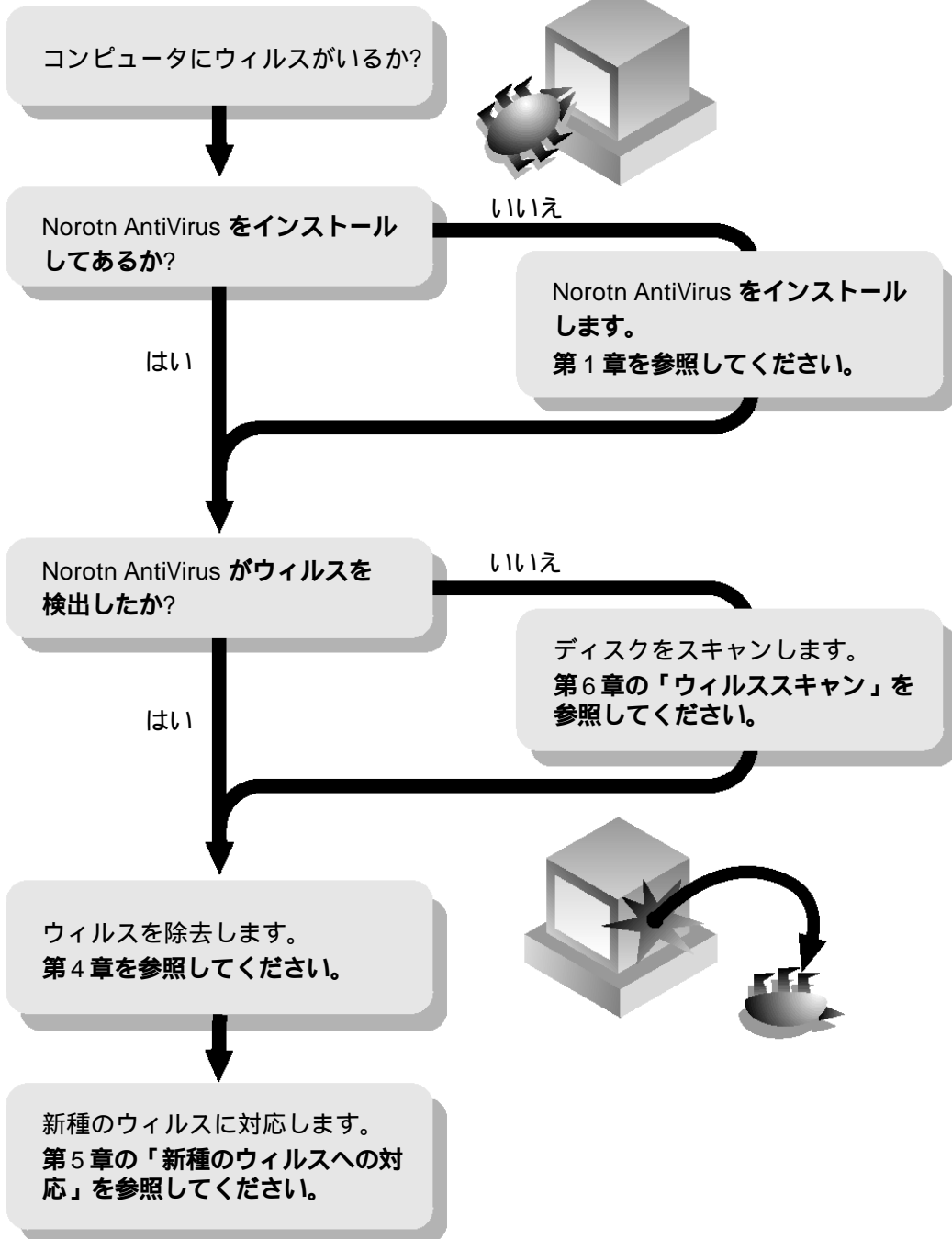
いかなる場合にせよ、シマンテックの賠償責任が、本ソフトウェアのご購入代金を超えることはありません。上記の責任限定・免責規定は、お客様が本ソフトウェアを返品するか否かにかかわらず適用されます。

その他

本使用許諾契約は、英国の法律に従って解釈されます。本使用許諾契約は、本使用許諾に付随する許諾補遺条項、または、お客様とシマンテックの双方が署名した書面によってのみ、その内容を変更することができます。本使用許諾契約に関するご質問がある場合、または、その他の理由によりシマンテックと連絡をとりたいお客様は、下記の住所までお手紙でお知らせ下さい。

Sales and Service, Symantec Europe, Kanaalpark 145, Postbus 1143,2321 JV Leiden, The Netherlands.

助けて！ ウィルスがいた！



このマニュアルについて

このマニュアルにはNorton AntiVirus 2001 の使い方と機能についての説明が載っています。

表記

このマニュアルでは次の表記に従って説明します。

メモ	補足説明または例外
ヒント	操作のヒントまたはショートカット
注意	データまたはソフトウェアに予期しない結果や破壊的な結果が起きる可能性のある条件についての警告
警告	ハードウェアに予期しない結果や破壊的な結果が起きる可能性のある条件についての警告
説明中の [角カッコ]	メニュー、ダイアログボックス、オプションなど画面に表示されるユーザーインターフェースの文字列

ドライブ名の表記

このマニュアルでハードディスクやフロッピーディスクのドライブの例を示すときには、コンピュータのドライブ名を次のように想定します。

ハードディスクがドライブ C

フロッピーディスクがドライブ A

(フロッピーディスクドライブが 2 台あるコンピュータの場合は 1 台目がドライブ A、2 台目がドライブ B)

CD-ROM がドライブ D

自分のコンピュータのドライブの構成がこれらと異なる場合、説明中のドライブ名をそれぞれ置き換えて読んでください。

目次

助けて! ウィルスがいた!	V
---------------------	---

このマニュアルについて

第1章 インストール

インストールの準備	1-1
救済ディスクセットを作成する準備	1-1
Norton AntiVirusのインストール	1-2
インストール時のウィルス除去	1-2
緊急用ディスクセットについて	1-3
Norton AntiVirusのアンインストール	1-4

第2章 Norton AntiVirus の紹介

Norton AntiVirus 2001 の新機能	2-1
Norton AntiVirus の特長	2-2
Auto-Protect	2-2
有害なコードへの対応	2-2
圧縮ファイルのウィルスの検出	2-2
電子メールスキャン	2-2
検疫	2-3
自動LiveUpdate	2-3
LiveUpdate による更新	2-3
救済ディスクセット	2-3
Norton AntiVirus の起動	2-3
Norton AntiVirus のメインウィンドウ	2-4
ヘルプの表示	2-5
ダイアログボックスのヘルプ	2-5
操作手順のヘルプ	2-6
説明の表示ヘルプ	2-6
ヘルプメニュー	2-7

第3章 救済ディスクセット

救済ディスクセットの種類	3-1
救済ディスクセットの作成	3-2
Norton Zip救済ディスクセットの作成	3-2
基本救済ディスクセットの作成	3-4

救済ディスクセットの更新	3-5
救済ディスクセットの使い方	3-6
SARCへのファイルの提出	3-7

第4章 Norton AntiVirus警告

Norton AntiVirus警告が表示されたら	4-1
Windowsモードの警告	4-1
DOSモードの警告	4-2
Windows NT上での警告	4-2
警告時に選択できるオプション	4-3
警告の種類	4-4
感染ファイルの警告	4-4
メモリ上のウィルスの警告	4-5
ウィルスらしい活動の警告	4-6
修復できない場合の対処	4-7
感染ファイル	4-7
ハードディスクのマスターブートレコードまたはブートレコード	4-8
システムファイル	4-8

第5章 ウィルスの予防

コンピュータウィルスについて	5-1
ウィルスがすること	5-1
ウィルスがしないこと	5-1
トロイの木馬について	5-2
ワームについて	5-2
Norton AntiVirusが自動的にすること	5-2
ユーザーがしなければならないこと	5-3
ウィルスを避けるためのヒント	5-3
Auto-Protectによる監視	5-4
Auto-Protectの切り替え	5-5
新種のウィルスへの対応	5-5
LiveUpdateによるウィルス定義の更新	5-6
最新Norton AntiVirusの入手	5-6

第6章 Norton AntiVirusの使い方

ウィルススキャン	6-1
スキャンの種類	6-1
ドライブのスキャン	6-2
電子メールの保護	6-3
レポート	6-4
検疫ウィンドウ	6-4

活動ログ	6-4
ウィルスリスト	6-4
スケジュール	6-4
Norton AntiVirusのカスタマイズ	6-6

第7章 トラブルシューティング

テクニカルサポートからのご案内

索引

インストール

1

Norton AntiVirusをコンピュータにインストールする操作は簡単です。インストールプログラムの実行後に画面の指示に従ってコンピュータを再起動します。

インストールの準備

メモ コンピュータに以前のバージョンの Norton AntiVirus や他のアンチウイルスソフトウェアをインストールしてある場合には Norton AntiVirus のセットアッププログラムを実行する前にアンインストールすることをお勧めします。

救済ディスクセットを作成する準備

Windows 95/98/Me に Norton AntiVirus をインストールする場合、インストールの最後に救済ディスクセットを作成するステップがあります。救済ディスクセットには次の2種類があります。作成したい種類に応じてディスクを用意してください。ディスクと同じ枚数のディスクラベルも必要です。

基本救済ディスクセット

フロッピーディスクのみで構成されます。空の(または消去していい)1.44 MB のフロッピーディスクを5枚用意します。

Norton Zip 救済ディスクセット

Zipディスクとブート用のフロッピーディスクで構成されます。Zipディスクとフロッピーディスクを1枚ずつ用意します。

メモ Norton AntiVirusはUSBインターフェース付きのZipドライブまたはJazドライブをサポートしません。ドライブ用のDOSのドライバがないからです。

Norton AntiVirus のインストール

Norton AntiVirus をインストールするには

- 1 Windows を起動します。
- 2 すべての Windows プログラムを終了させます。
- 3 CD-ROM ドライブに Norton AntiVirus CD を挿入します。
インストールの初期画面が表示されます。
- 4 [Norton AntiVirus のインストール(I)] をクリックします。
セットアッププログラムが起動します。
- 5 画面の指示に従って操作します。

ヒント セットアップのそれぞれのパネルにデフォルトで表示される設定値はほとんどのユーザーにとって最適なはずです。

インストールの初期画面が表示されない場合

- 1 マイコンピュータアイコンをダブルクリックします。
- 2 CD-ROM のアイコンをダブルクリックします。
- 3 CDSTART.EXE をダブルクリックします。

インストールが終了したら救済ディスクセットの作成をお勧めします。救済ディスクセットの作成はコンピュータをウイルスから保護するための重要な作業です。たとえば、メモリ上のウイルスが原因でコンピュータが停止した場合、救済ディスクセットがあれば安全にコンピュータを再起動できます。詳しくは第3章の「救済ディスクセットの作成」を参照してください。

インストール時のウイルス除去

インストール時に Norton AntiVirus はメモリをウイルススキャンします。アクティブなウイルスが見つかった場合には、インストールを実行する前に Norton AntiVirus の緊急用ディスクセットを使ってウイルスを除去することをお勧めします。

緊急用ディスクセットについて

緊急用ディスクセットを作成するには

警告 問題のあるコンピュータとは異なるコンピュータ上でこの操作をしてください。この手順で新たな問題が起きることがあります。

- 1 Norton AntiVirus CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 [CD の参照] をクリックします。
- 3 Support フォルダをダブルクリックします。
- 4 Edisk フォルダをダブルクリックします。
- 5 DOS/V、NEC NX マシンをお使いの方は DOSV フォルダ、NEC PC98 シリーズをお使いの方は NEC フォルダをダブルクリックします。
- 6 フォルダ内の Readme.txt の内容に従って操作します。

緊急用ディスクセットを使ってウイルスを除去するには

- 1 コンピュータの電源を切ります。
- 2 緊急用ディスク1をフロッピーディスクドライブに挿入してからコンピュータの電源を入れます。
- 3 画面の指示に従って操作します。

緊急用プログラムはロードに数分かかります。ロードが終わると自動的にコンピュータのスキャンとウイルスの除去をします。

メモ コンピュータをフロッピーディスクドライブで起動できない場合には第7章の「コンピュータをフロッピーディスクドライブでブートできません」を参照してください。

CD を緊急用ディスクとして使うには

コンピュータを CD-ROM ドライブで起動できる場合、Norton AntiVirus CD を緊急用ディスクとして使えます。緊急用ディスク1を挿入してコンピュータを再起動するように要求するメッセージが表示されたら、次の手順で操作します。

- 1 Norton AntiVirus CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
- 2 コンピュータを再起動します。

メモ CD-ROM ドライブで起動するようにコンピュータのBIOS 設定オプションを変更する必要があるかもしれません。起動デバイスを変更する方法についてはコンピュータのマニュアルを参照してください。

メモ NEC 98 シリーズでは CD を緊急用ディスクとして使うことはできません。

ヒント CD から実行している場合、他の緊急用ディスクの挿入はスキップできます。緊急用ディスクセットの情報はすべて CD にあります。

Norton AntiVirus のアンインストール

Norton AntiVirus はスタートメニューを使って簡単にコンピュータから削除できます。コントロールパネルの [アプリケーションの追加と削除] アプレットを使っても削除できます。

スタートメニューで Norton AntiVirus を削除するには

- 1 スタートメニューで [プログラム(P)] [Norton AntiVirus] [Norton AntiVirus アンインストール] の順に選択します。
- 2 画面の指示に従って操作します。

コントロールパネルで Norton AntiVirus を削除するには

- 1 スタートメニューで [設定(S)] [コントロールパネル(C)] の順に選択します。
- 2 [アプリケーションの追加と削除] をダブルクリックします。
- 3 インストール済みプログラムのリストで Norton AntiVirus をハイライトして [追加と削除(R)] をクリックします。
- 4 画面の指示に従って操作します。

メモ 他のシマンテック製品をインストールしていなければ LiveReg および LiveUpdate もコントロールパネルで削除できます。ステップ3で削除したいコンポーネントを選択してください。

Norton AntiVirus の紹介

2

Norton AntiVirus はすべてのウィルスからコンピュータを保護します。ウィルスだけでなく、悪質な ActiveX コントロールやJava アプレットも検出して除去します。見つかった感染ファイルは検疫すればシステムに被害が起きる心配はなく、疑わしいファイルはシマンテック社に提出して分析を依頼できるようになっています。Norton AntiVirus のウィルス定義は LiveUpdate で自動的に更新されます。

Norton AntiVirus 2001 の新機能

自動LiveUpdateはインターネットの接続時に新しいウィルス定義があるかどうかを調べます。作業を中断しないでウィルス定義の更新ができます。

スマートスキャン技術はファイルスキャンの処理効率を向上し、常にバックグラウンドでウィルスを監視してシステムへの影響を減らします。この技術ではどのファイルに実行可能なコードがあるかを判断し、そのようなファイルのみスキャンしてウィルスやその他の悪質なコードを見つけます。

さらに、この新しい技術は感染しそうなファイルのみのスキャンを選択するユーザーにとって大幅なセキュリティ強化を意味します。スマートスキャンは各ファイルを調べてファイルの内部に実行可能なコードがあるかどうかを判断するため、ウィルスがいる可能性のあるファイルでスキャンエンジンが回避されることは決してありません。

総合的な電子メールスキャン保護はMSNなどセキュリティで保護されたパスワード認証 (SPA) を使用するクライアントを追加サポートします。Norton AntiVirusはサーバーから受信する電子メールを自動的にスキャンし、電子メールの添付ファイルを保存または起動する前にそこに潜むウィルスを検出します。そのため、知らないうちにウィルスを転送する危険性がなくなります。

一段と使いやすくなったインターフェースに新しい[電子メールの状態(I)]ボタンがあり、電子メールアカウントとそのアカウントで電子メール保護が有効であるかどうかが表示されます。電子メールのウィルス対策保護が設定しやすくなりました。

ブート可能CDに今までよりも便利なウィルス対策保護が備わっています。ブート可能CDでコンピュータを起動して、簡単にウィルスの緊急時から回復できます。

Norton AntiVirus の特長

Norton AntiVirus はウイルスやその他の有害なコードがコンピュータに侵入するのを防ぎます。Norton AntiVirus をインストールしておけば、電子メールの添付ファイル、インターネットまたはネットワークからのダウンロード、フロッピーディスクやその他のリムーバブルメディアなどの感染経路を通して侵入するウイルスを防止できます。

Auto-Protect

Norton AntiVirus をインストールしてコンピュータを再起動するとAuto-Protect がオンになります。Auto-Protect はユーザーの作業中にバックグラウンドで動作してウイルスまたは有害なコードの侵入を自動的に監視し、ウイルスが見つかったと警告を表示します。

有害なコードへの対応

Norton AntiVirus はウイルス以外の有害なコードからもシステムを保護します。ウイルス以外の有害なコードとはトロイの木馬、悪質な ActiveX コントロールや Java アプレットなどです。インターネットのホームページを閲覧すると有害なコードがダウンロードされる危険がありますが、Norton AntiVirus をインストールしておけばコンピュータは安全です。

圧縮ファイルのウイルスの検出

Norton AntiVirusはZipファイルのような圧縮ファイルの内部にいるウイルスや悪質なコードを調べます。圧縮ファイル中に含まれる別の圧縮ファイルの内部の問題を見つけて解決することもできます。Zip ファイルだけに保護が制限されているのではなく、Norton AntiVirusは多くの種類の圧縮ファイル内部の問題を見つけます。

電子メールスキャン

Norton AntiVirusは受信する電子メールの添付ファイルを調べます。ウイルスが見つかった場合、Norton AntiVirus はそれを修復します。

検疫

見つかった感染ファイルを修復できない場合、Norton AntiVirus はそのファイルを検疫できます。検疫とは特別な領域に隔離して他のファイルに感染しないようにすることです。その後で最新のウイルス定義ファイルを入手し、再び感染ファイルの修復を試みれば問題は完全に解決します。

自動 LiveUpdate

自動LiveUpdateはインターネットの接続時に新しいウイルス定義があるかどうかを調べます。作業を中断しないでウイルス定義の更新ができます。

LiveUpdate による更新

LiveUpdate は最新のファイルを入手するためのツールです。インターネット経由でシマンテック社のサイトに接続し、最新のファイルをダウンロードすることによってコンピュータ上の製品を自動的に更新します。詳しくは第5章の「新種のウイルスへの対応」を参照してください。

救済ディスクセット

救済ディスクセットはウイルスが原因でコンピュータが起動しなくなったときなどの緊急時に役立ちます。詳しくは「第3章 救済ディスクセット」を参照してください。

メモ Windows NT と Windows 2000 では救済ディスクは不要であるためインストールされません。

Norton AntiVirus の起動

Norton AntiVirus を起動するには、次のいずれかの操作をします。

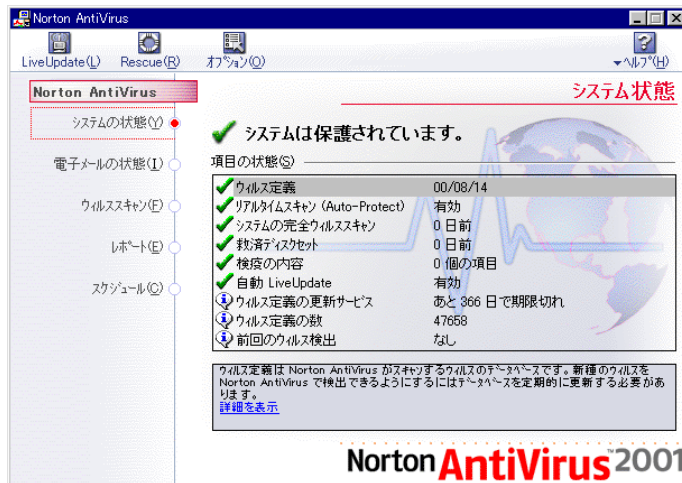
スタートメニューで[プログラム(P)] [Norton AntiVirus] [Norton AntiVirus 2001] の順に選択します。

デスクトップにある Norton AntiVirus 2001 アイコンをダブルクリックします。

Windows のシステムトレイ(タスクバー右端)にある Norton AntiVirus アイコンをダブルクリックするか、または右クリックして表示されるメニューで [Norton AntiVirus を開く(O)] を選択します。

Norton AntiVirus のメインウィンドウ

Norton AntiVirus が起動するとメインウィンドウが表示されます。



Norton AntiVirus メインウィンドウは Norton AntiVirus のすべての活動の開始点です。左パネルにあるボタンのいずれかをクリックすると、そのタスクに関する説明とオプションが右パネルに表示されます。

ヒント 追加のシマンテック製品をインストールしてある場合にはその製品が表示されることがあります。

[システムの状態(Y)] ボタンをクリックすると右パネルに現在の Norton AntiVirus 保護の状態が表示されます。

[電子メールの状態(I)] ボタンをクリックすると電子メールの保護状態を表示、設定できます。

[ウィルススキャン(F)] ボタンをクリックすると手動でスキャンを実行できます。第6章の「ウィルススキャン」を参照してください。

[レポート(E)] ボタンをクリックすると検疫、活動ログ、ウィルスリストを表示できます。第6章の「レポート」を参照してください。

[スケジュール(C)] ボタンをクリックするとウィルススキャンや LiveUpdate を定時に実行するイベントを作成できます。第6章の「スケジュール」を参照してください。

メインウィンドウ上部にあるボタンは Norton AntiVirus 全般に関係する機能呼び出します。

[LiveUpdate(L)] ボタンをクリックすると LiveUpdate ウィザードが起動します。詳しくは第 5 章の「新種のウイルスへの対応」を参照してください。

[オプション(O)] ボタンをクリックすると Norton AntiVirus の動作をカスタマイズできます。詳しくは第 6 章の「Norton AntiVirus のカスタマイズ」を参照してください。

[Rescue(R)] ボタンをクリックすると救済ディスクセットを作成または更新するための Rescue Disk プログラムが起動します。詳しくは「第 3 章 救済ディスクセット」を参照してください。

[ヘルプ(H)] ボタンをクリックするとヘルプメニューが表示されます。

ヘルプの表示

Norton AntiVirus プログラムには広範なヘルプが用意されています。ヘルプにはすべての Norton AntiVirus プログラムの使い方についての詳しい手順が載っています。

Norton AntiVirus のヘルプトピックは 3 種類に大別できます。

ダイアログボックスのヘルプ

操作手順のヘルプ

説明の表示ヘルプ

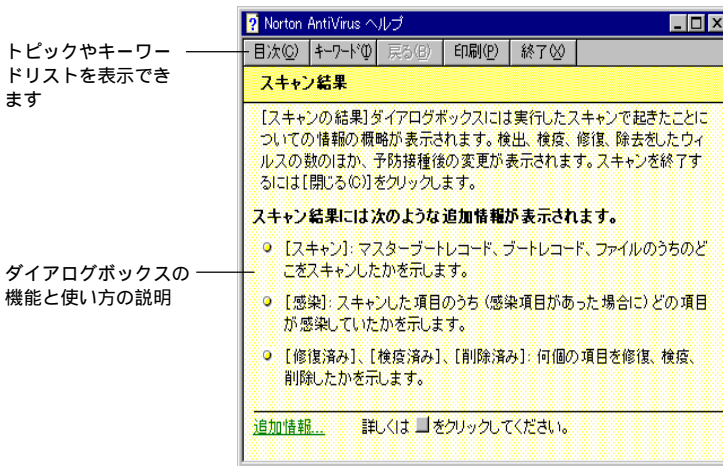
ダイアログボックスのヘルプ

ダイアログボックスのヘルプは Norton AntiVirus プログラム自体についての情報を表示します。これを状況依存型ヘルプといいます。現在表示されている特定のユーザーインターフェース(ダイアログボックスまたはウィンドウ)のためのヘルプです。

ダイアログボックスのヘルプを表示するには

ダイアログボックス下部にある [ヘルプ] ボタンをクリックします。

現在のダイアログボックスに合ったヘルプトピックが表示されます。



操作手順のヘルプ

操作手順のヘルプは Norton AntiVirus プログラムの操作手順をステップを追って説明します。操作手順のヘルプトピックには[トピックの検索]ウィンドウの[目次] ページまたは [キーワード] ページからアクセスできます。[トピックの検索]ウィンドウはヘルプウィンドウ上部にある[目次(C)]ボタンをクリックすれば開きます。

説明の表示ヘルプ

ダイアログボックスを使うときに本当に知りたいのはダイアログボックス上の個々のコントロール(ボタン、オプション、テキストボックスなど)の働きです。または、操作手順のヘルプに従って操作するときにもダイアログボックス上のどのコントロールがどのオプションに相当するかについて確信がないと操作が進みません。説明の表示ヘルプを使えばコントロールの働きをすばやく確認できます。

説明の表示ヘルプを表示するには

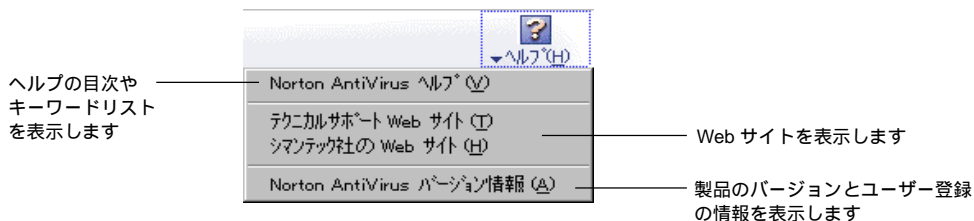
- 1 ダイアログボックスの任意の場所を右クリックします。
- 2 [説明の表示(W)] を選択します。

ヘルプメニュー

ヘルプメニューは Norton AntiVirus メインウィンドウでいつでも表示できます。

ヘルプメニューを表示するには

Norton AntiVirus メインウィンドウ上部にある[ヘルプ(H)]ボタンをクリックします。



救済ディスクセット

救済ディスクセット(Rescue Disk)はウィルスが原因でWindowsコンピュータが正常に起動しなくなったときなどの緊急時に役立ちます。

救済ディスクセットにはNorton AntiVirus プログラムのほかにコンピュータごとのシステムの起動データ、ディスクのパーティション情報、その他の情報の複製セットが記録されます。これらの情報はコンピュータの構成(ハードウェアやオペレーティングシステム)に変更を加えると変わるので、そのつど救済ディスクセットを更新することが重要です。

メモ Windows NTまたはWindows 2000を使っている場合、救済ディスクセットを作成するオプションはありません。Windows NTやWindows 2000にはシステムの起動に関係する保護機能が組み込まれているので救済ディスクセットを使う必要はありません。

救済ディスクセットの種類

救済ディスクセットには基本救済ディスクセットとNorton Zip救済ディスクセットの2種類があります。

Norton Zip 救済ディスクセット

Norton Zip救済ディスクセットは1枚のZipディスクとブート可能フロッピーディスクで構成されます。Norton Zip 救済ディスクセットがあれば、ウィルスが原因でたとえハードディスクが起動しなくなってもWindowsを起動してNorton AntiVirusで問題を解決できます。

メモ Norton Zip救済ディスクセットはDOS/V、NEC NXマシンでのみ作成できます。

基本救済ディスクセット

基本救済ディスクセットは1枚のブート可能フロッピーディスクと追加のフロッピーディスクで構成されます。コンピュータが起動しない場合には救済ディスクを使ってコンピュータをDOSモードで起動し、救済ディスクセットに入っているDOSスキャナを使ってウィルスの問題を解決できます。

メモ 基本救済ディスクセットは一連のフロッピーディスクのほかに大容量ドライブやアクセス権のあるネットワークドライブなどにも格納できます。

注意 1台のコンピュータ用に作成した救済ディスクセットを使って別のコンピュータを起動しないでください。救済ディスクセットはそれを作成したコンピュータ専用です。

ヒント なるべく新しい救済ディスクセットを使ってください。それだけ完全に回復できる確率が高くなります。

救済ディスクセットの作成

Norton AntiVirusのインストール時に救済ディスクセットを作成しなかった場合、インストール後に Rescue Disk プログラムを実行することによっていつでも作成できます。しかし、安全のためにできるだけ早く作成することをお勧めします。

作成する救済ディスクセットの種類に応じてディスクを用意してください。ディスクと同じ枚数のディスクラベルも必要です。

Norton Zip 救済ディスクセットの作成

Norton Zip 救済ディスクセットはZip ディスクとブート用のフロッピーディスクで構成されます。Zip ディスクとフロッピーディスクを1枚ずつ用意します。

起動しなくなったシステムを復元するにはこの両方が必要です。フロッピーディスクにはコンピュータを起動するためのDOSシステムが入ります。Zip ディスクにはWindows オペレーティングシステム、起動ファイル、設定情報、Norton AntiVirus のプログラムが入ります。

ヒント 救済ディスクセットに格納されるのはシステム設定とシステムの復元に必要なファイルのみです。コンピュータ上のデータのバックアップは入りません。データのバックアップは別のディスクに作成してください。

Norton Zip 救済ディスクセットを作成するには

1 次のいずれかの操作をします。

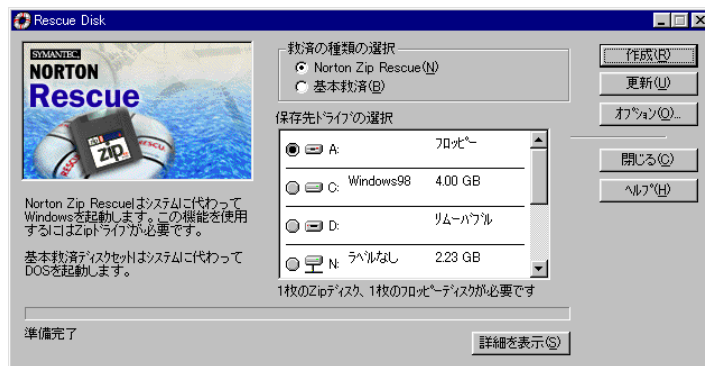
Norton AntiVirus のメインウィンドウ上部にある [Rescue(R)] をクリックします。

スタートメニューで[プログラム(P)] [Norton AntiVirus] [Rescue Disk]
の順に選択します。

- 2 ZipドライブにZipディスク、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを挿入します。

メモ 空の(または消去していい)ディスクを使ってください。Rescue Diskはディスク上のすべての情報を上書きします。

- 3 [救済の種類を選択] グループボックスで[Norton Zip Rescue(N)]を選択します。



注意 コンピュータに複数のZipドライブがある場合にはNorton Zip救済ディスクセットを作成、更新、利用するときに常に同じZipドライブを使ってください。

- 4 [作成(R)] をクリックします。

Rescue Diskはディスクをフォーマットしてコンピュータの重要な起動情報をディスクに保存します。

- 5 新しく作成した救済ディスクセットをテストするために [再起動(R)] をクリックします。この処理には2分が3分かかることがあります。

画面に Rescue Recovery Wizardが表示されれば救済ブートディスクは正しく働いています。

- 6 完成した救済ディスクセットにラベルを貼って作成日を書き込み、安全な場所に保管します。

基本救済ディスクセットの作成

基本救済ディスクセットはフロッピーディスクのみで構成されます。空の(または消去していい)1.44 MB のフロッピーディスクを5枚用意します。

基本救済ディスクセットを使うとシステムクラッシュ後にコンピュータでDOSを起動してDOSのプログラムを使ってウィルスの問題を解決できます。

基本救済ディスクセットを作成するには

- 1 次のいずれかの操作をします。

Norton AntiVirus のメインウィンドウ上部にある [Rescue(R)] をクリックします。

スタートメニューで [プログラム(P)] [Norton AntiVirus] [Rescue Disk] の順に選択します。
- 2 [救済の種類を選択] グループボックスで [基本救済(B)] を選択します。
- 3 Rescue Disk で救済情報の保存先として使いたいドライブを選択します。通常はフロッピーディスクドライブを選択します。

注意 救済情報の保存先としてフロッピーディスク以外(ネットワークドライブ、2台目の物理ハードディスク、その他の大容量ディスク)を選択する場合、選択したディスク上のフォルダに救済ディスクセットが格納されます。ブート可能なフロッピーディスクを作成して安全な場所に保管してください。このディスクはネットワークドライブまたはコンピュータを起動して救済ディスクセットがあるドライブにアクセスするために必要な他のファイルを格納するディスクです。救済ディスクセットを1台目のハードディスクドライブつまり起動しているドライブに作成することは避けてください。

- 4 フロッピーディスクドライブにディスクを挿入します。
- 5 [作成(R)] をクリックします。

Rescue Disk はディスクをフォーマットしてコンピュータの重要な起動情報をディスクに保存します。
- 6 画面の指示に従って追加のディスクを挿入します。挿入する前にディスク名と日付を書いたディスクラベルを貼ることをお勧めします。
- 7 新しく作成した救済ディスクセットをテストするために [再起動(R)] をクリックします。

画面に Rescue Disk ウィンドウが表示されれば救済ブートディスクは正しく働いています。

- 8 完成した救済ディスクセットにラベルを貼って作成日を書き込み、安全な場所に保管します。

救済ディスクセットの更新

救済ディスクセットに格納すべきコンピュータの情報は変化するので、救済ディスクセットを最新の状態に保つことが重要です。

救済ディスクセットは好きなときに何回でも更新できます。新しく作成し直さなくても Rescue Disk の更新機能を使えば既存の救済ディスクセットを短時間で簡単に更新できます。

注意 更新機能は救済ディスクセットの履歴を追跡します。何かの理由で1台のコンピュータ用に複数の救済ディスクセットを作成する場合には更新機能を使わないでください。特別な理由がないかぎり、1台のコンピュータのための救済ディスクセットは1組だけにしてください。

救済ディスクセットを更新するには

- 1 次のいずれかの操作をします。
 - Norton AntiVirus のメインウィンドウ上部にある [Rescue(R)] をクリックします。
 - スタートメニューで [プログラム(P)] [Norton AntiVirus] [Rescue Disk] の順に選択します。
- 2 [救済の種類を選択] グループボックスで更新しようとする救済ディスクセットの種類を選択します。
- 3 救済ディスクセットの場所を指定します。
 - 救済ディスクセットのためのドライブを [保存先ドライブの選択] で選択します。
 - フロッピーディスクの救済ディスクセットを更新しようとする場合、ディスクセットの1枚目のディスクをドライブ A に挿入します。
- 4 [更新(U)] をクリックします。
 - Rescue Disk はディスク上のコンピュータに不可欠な起動情報を更新します。
- 5 新しく更新した救済ディスクセットをテストするために [再起動(R)] をクリックします。
- 6 完成した救済ディスクセットにラベルを貼って作成日を書き込み、安全な場所に保管します。

救済ディスクセットの使い方

ウィルスが原因でWindowsコンピュータが正常に起動しなくなったときには救済ディスクセットが役立ちます。一部のウィルスを除去するには感染したハードディスクの代わりに未感染のディスクでコンピュータを起動する必要があります。そのような状況になると、Norton AntiVirusは警告を表示してユーザーに救済ディスクセットを使うように指示します。

救済ディスクセットを使う前に手もとの救済ディスクセットが最新の状態であることを確認してください。最新の状態とは最後に次のような操作をした後で作成または更新したことを意味します。

ハードウェアコンポーネントの追加、変更、取りはずし

パーティションソフトウェアによるハードディスクのパーティションの追加、再分割、削除

オペレーティングシステムの(たとえばWindows 98への)アップグレード

注意 救済ディスクセットの中の重要な情報が古すぎる場合、その救済ディスクセットを使ってコンピュータを起動しようとするシステムに問題が起きる可能性があります。コンピュータが正常に起動しない問題を解決することはまずできません。(ウィルスの除去だけならばできる可能性があります。システムを復元しようとしなくてNorton AntiVirusのスキヤナによる操作のみを試みてください。)

メモ 救済ディスクセットに入っているウィルス定義が古いだけであれば、その救済ディスクセットを使っても問題はありませぬ。新種のウィルスを完全に認識できない場合がありますが、システムに害はありません。

救済ディスクセットを使ってウィルスを除去するには

- 1 コンピュータが動作中の場合にはWindowsのスタートメニューで[Windowsの終了(U)]を選択してコンピュータをシャットダウンします。
- 2 電源スイッチを使ってコンピュータの電源を切ります。電源を切るとメモリ上のウィルスが除去されます。

必ず電源を切ってください。[コンピュータを再起動する(R)]を選択したりCtrl+Alt+Delを押して再起動しただけはメモリ上からウィルスが除去されないことがあります。
- 3 救済ブートディスク(救済ディスクセットの1枚目)を書き込み禁止にしてフロッピーディスクドライブに挿入します。

コンピュータがドライブ A から起動します。

メモ 救済ディスクセットのディスクを使うときには書き込み禁止にしてください。ディスクに格納してあるデータが誤って変更されるのを防ぐためです。

- 4 数秒待ってからコンピュータの電源を入れます。
- 5 画面の指示に従って操作します。
- 6 操作が完了したらフロッピーディスクドライブからディスクを取り出し、コンピュータを再起動します。

メモ 緊急時にNorton Zip救済ディスクセットを使う場合のウイルスに対する処理は起動直後に実行されるRescue Recovery WizardとNorton AntiVirusのみによって完了します。ウイルスの問題を解決するために他の作業は必要ありません。

SARC へのファイルの提出

最新のウイルス定義を使ってウイルススキャンを実行してNorton AntiVirusでウイルスが検出されなかった場合でも、コンピュータにウイルスがいるのではと疑うことがあります。疑いのあるファイルは検疫場所に入れてください。これでそのウイルスは伝染しなくなります。次にスキャンと配信を使ってそのファイルをSARCに提出します。

次の手順でウイルスの疑いのあったサンプルをテストのためにSARCに提出します。

メモ .zipファイルなどのような圧縮ファイルの場合には提出する前に圧縮解除する必要があります。圧縮ファイルは提出できません。

ファイルを検疫場所に入れるには

- 1 Norton AntiVirus を起動します。
- 2 Norton AntiVirus メインウィンドウで [レポート(E)] をクリックします。
- 3 [検疫場所の項目を表示して管理します。] をダブルクリックします。
- 4 Norton AntiVirus 検疫で [項目の追加] をクリックします。
- 5 [検疫に追加] ダイアログボックスで検疫場所に入れたいファイルを参照して選択します。 [追加(A)] をクリックします。

メモ 検疫場所に入ったファイルは暗号化されるので、コンピュータにとってもう脅威ではありません。

スキャンと配信を使って検疫ファイルを SARC に提出するには

- 1 提出したいファイルを検疫ウィンドウの右パネルで選択します。
- 2 [項目の提出] をクリックします。
- 3 画面の指示に従って操作します。

Norton AntiVirus 警告

4

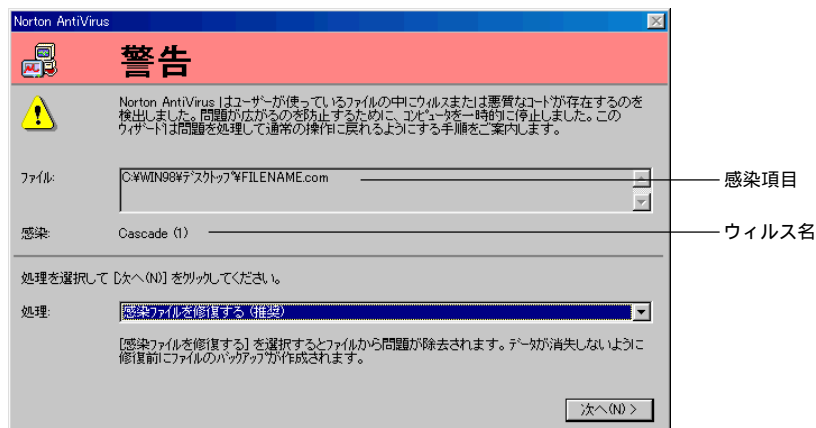
Norton AntiVirusはシステム上で何か問題を検出すると画面にメッセージを表示します。そのようなメッセージを「警告」といいます。

Norton AntiVirus 警告が表示されたら

ここでは Auto-Protect による警告の例をとりあげ、それに対する応答のしかたを示します。Auto-Protectがオンになっているときにウイルスまたは悪質なコードが検出されると Norton AntiVirus はその場ですぐに警告を表示します。

Windows モードの警告

次の画面は Windows 95/98/Me の Auto-Protect がハードディスク上でプログラムウイルスを検出した場合の例です。

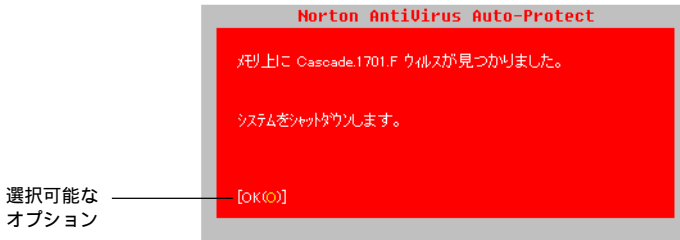


この警告に応答するには次の手順で操作します。

- 1 画面のメッセージを読み、感染項目とウイルス名を把握します。
- 2 [次へ(N)] をクリックします。
- 3 ウィザードの指示に従って操作しながら問題を解決します。

DOS モードの警告

次の画面は DOS の Auto-Protect がメモリ上のウイルスを検出した場合の例です。



この警告に応答するには次の手順で操作します。

- 1 問題の種類を識別します。それからメッセージ部の残りを読み、感染項目とウイルス名を把握します。
- 2 事前選択されているオプション(この例では [OK])を選択するために Enter キーを押します。

Windows NT 上での警告

次に示すのは Norton AntiVirus が Windows NT のハードディスク上でプログラムウイルスを検出した場合の画面例です。



この警告に応答するには、次の手順で操作します。

- 1 [OK] を(必要に応じて何回か)クリックします。
- 2 ディスクをウイルススキャンしてウイルスを除去します。詳しくは第6章の「ウイルススキャン」を参照してください。

メモ Norton AntiVirus は Windows NT 上と Windows 2000 上で感染ファイルを自動的に修復するように事前設定されています。Auto-Protect の設定をカスタマイズすれば検疫などその他の処理を適用できます。Auto-Protect のカスタマイズについて詳しくはヘルプを参照してください。

警告時に選択できるオプション

画面に Norton AntiVirus 警告が表示された場合には次の表を参考にしてどの処理を適用するかを決めてください。ほとんどの場合、推奨する処理が事前を選択されているのでそのまま [次へ(N)] をクリックできます。

オプション	説明
修復(R)	ウィルスを除去して感染項目を修復します。ウィルスが見つかったときに [修復(R)] は常に最高の選択肢です。
検疫(Q)	感染ファイルを特別な領域に隔離します。ウィルスは伝染しなくなりますが除去されません。未知のウィルスによる感染の疑いがある場合には [検疫(Q)] を選択してください。検疫された感染ファイルは SARC (Symantec AntiVirus Research Center) に提出して分析を依頼できます。
削除(D)	感染ファイルを削除することによってウィルスを除去します。ファイルもウィルスも永久的に消滅します。[削除(D)] は [修復(R)] で修復できない場合に最善の選択肢です。感染ファイルを削除した後で未感染の同じファイルをバックアップディスクからコピーし直してください。その後で再びウィルスが検出されたらバックアップディスクのファイルが感染しています。
中止(S)	感染ファイルが使われないように現在の操作を中止します。[中止(S)] を選択しても問題は解決しません。次回に同じ操作をすると再び警告が表示されます。
続行(C)	現在の操作を続行します。問題は解決しません。ウィルスの活動ではないという確信がある場合にのみ [続行(C)] を選択してください。後で再び警告が表示されます。確信がない場合には [中止(S)] を選択してください。
除外(E)	ファイルをスキャンの対象から除外します。活動中のウィルスは除去されません。[除外(E)] は主としてシステム管理者がシステムの調整を目的として使うように用意されています。

DOS の警告が表示された場合にはマウスは動きません。その場合、オプションをクリックする代わりにキーボードでオプションのショートカット文字(カッコに入っている英字)のキーを押すことで選択します。たとえば、[修復(R)] を選択するには英字の R のキーを押します。または、適用したいオプションをハイライトして Enter キーを押す方法もあります。

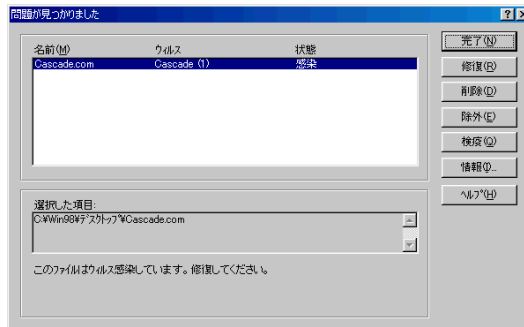
警告の種類

Norton AntiVirusでどのような警告が表示されるかは問題を検出した「スキャンの種類」と検出された「問題の種類」によって決まります。スキャンの種類とは手動スキャン、定時スキャン、Auto-Protect、起動時スキャン、電子メールスキャンなどです。問題の種類は感染ファイル、メモリ上のウイルス、ウイルスらしい活動に大別されます。

感染ファイルの警告

Windows モードの警告(修復ウィザード)

手動スキャンや定時スキャンの実行中にコンピュータ上で感染ファイルが見つかったら修復ウィザードが起動します。修復ウィザードの1つ目のパネルで[手動(M)]を選択して[次へ(N)]をクリックすると「問題が見つかりました」のパネルが表示されます。

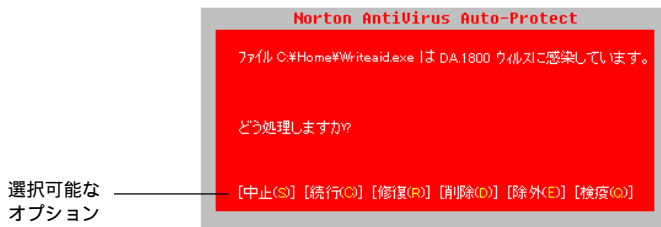


感染ファイルを修復するには

[修復(R)] をクリックします。

DOS モードの警告

DOSのAuto-Protectが感染ファイルを検出すると次のような画面が表示されます。



感染ファイルを修復するには

[修復(R)] を選択するために英字の R のキーを押します。

修復の完了

修復が完了するとファイルは感染する前の状態に戻ります。必要な操作はこれだけです。いったん修復すればウィルスはいなくなり、コンピュータは安全です。

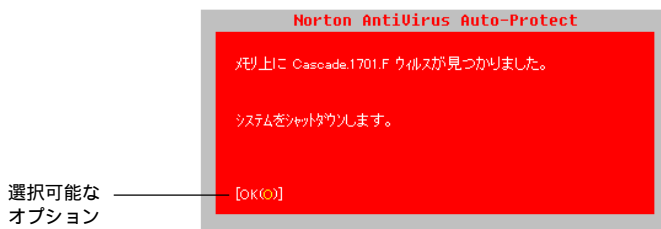
Norton AntiVirusが感染項目を修復できない場合については後の「修復できない場合の対処」を参照してください。

メモリ上のウィルスの警告

メモリ上のウィルスを検出するとNorton AntiVirusはコンピュータを停止します。通常はWindowsを終了しないでコンピュータの電源を切るという操作はしませんが、この場合にはしかたがありません。

メモリ上に存在するウィルスは活動状態であり、すぐにもディスク上のファイルに伝染する危険があるからです。すでに多くのファイルに伝染した可能性もあり、最悪の場合にはファイルが損傷しているかもしれません。

DOSのAuto-Protectがメモリ上のウィルスを検出すると次のような画面が表示されます。



コンピュータは停止しました。救済ディスクセットでコンピュータを再起動し、再びドライブをスキャンする必要があります。次の手順で操作してください。

メモリ上のウイルスを除去するには

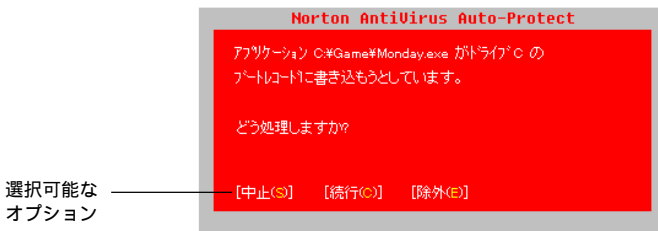
- 1 コンピュータの電源を切ります。
- 2 書き込み禁止にした救済ブートディスク(救済ディスクセットの1枚目)をドライブAに挿入します。
- 3 数秒間待ってからコンピュータの電源を入れます。
- 4 画面の指示に従って操作します。

救済ブートディスクが動かない場合には「第7章 トラブルシューティング」を参照してください。救済ディスクセットを作成していない場合には代わりに緊急用ディスクセットを使えます。緊急用ディスクセットについては第1章の「インストール時のウイルス除去」を参照してください。

ウイルスらしい活動の警告

ウイルスらしい活動の警告は必ずしもコンピュータにウイルスがいることを意味するわけではありません。疑わしい操作に関する単なる警告です。状況から見てその操作が妥当かどうかを判断するのはユーザー自身です。

DOSのAuto-Protectがウイルスらしい活動を検出すると次のような画面が表示されます。



ウイルスらしい活動の警告を解消するには

次のいずれかの操作をします。

警告に示された活動が実行中のアプリケーションの状況から判断して正常な場合には[続行(C)]を選択するために英字のCのキーを押してその動作の進行を許可します。

たとえば、プログラムの更新中にプログラムファイルへの書き込みが試みられていることを示す警告が表示されたら、[続行(C)]を選択します。

警告に示された活動がユーザーの試みている操作と関係がない場合には [中止(S)] を選択するために英字の S のキーを押してその動作を避けます。

たとえば、ゲームで遊んでいるときにハードディスクのブートレコードへの書き込みが試みられていることを示す警告が表示されたら、[中止(S)] を選択してディスクが変更されるのを防ぎます。

修復できない場合の対処

Norton AntiVirusがファイルを修復できない最も一般的な原因の1つはコンピュータ上のウイルス定義ファイルが最新でないことです。Norton AntiVirusメインウィンドウで[LiveUpdate(L)]をクリックすればインターネット経由でシマンテック社のサイトから最新のウイルス定義ファイルを入手できます。

ファイルを修復できない場合には次のいずれかの操作をします。

ウイルス定義ファイルを更新してから再びスキャンします。詳しくは第2章の「LiveUpdateによる更新」を参照してください。

画面に表示される指示を注意深く読み、修復できない項目の種類を識別します。次のいずれかに当てはまるはずです。

感染ファイルは(通常.EXEの拡張子が付く)実行可能ファイルです。データファイル(.DOC、.DOT、.XLSなどの拡張子が付くファイル)もマクロウイルスに感染することがあります。

ディスクのシステム領域(ハードディスクのマスターブートレコード、ブートレコード、フロッピーディスクのブートレコード)を修復できない場合、救済ディスクセットを使って復元できます。場合によっては、オペレーティングシステム(WindowsまたはDOS)のディスクでシステム領域やシステムファイル(IO.SYS、MSDOS.SYSなど)を復元することもできます。

以下では感染項目の種類ごとに対処のしかたを説明します。

感染ファイル

感染ファイルを修復できない場合、ファイルを検疫またはコンピュータから削除する必要があります。

メモ 感染によってはNorton AntiVirus CD上のSupport\NAVTools\Repairフォルダにある特別なツールで除去できることがあります。これらのツールはシマンテック社のWebサイト(<http://www.symantec.com/region/jp/sarcj/>)でも無償で利用できます。問題に利用できる駆除ツールがあるかどうかを確認してください。

ファイルを検疫する場合(推奨)

感染ファイルを検疫するとそのファイルは検疫場所に隔離されます。隔離されたファイルを検疫ファイルといいます。検疫ファイルは分析用にSARCに提出できます。

ファイルを削除する場合

感染ファイルを削除したら、次のいずれかの方法でファイルを復元します。

バックアップディスクから未感染の同じファイルをコピーし直します。

アプリケーションの製品パッケージに入っていたプログラムディスクを使って再インストールします。

ファイルを復元した後で再びウィルスが検出された場合には、おそらくバックアップディスクまたは元のプログラムディスクが感染しています。製造元に連絡し、ディスクの交換を依頼してください。

ハードディスクのマスターブートレコードまたはブートレコード

ハードディスク上のマスターブートレコードまたはブートレコードを修復できない場合、救済ディスクセットを使って復元できます。詳しくは第3章の「救済ディスクセットの使い方」を参照してください。場合によっては、オペレーティングシステム(WindowsまたはDOS)のディスクで復元できることもあります。

救済ディスクセットでハードディスクのマスターブートレコードを修復できない場合にはテクニカルサポートに連絡してください。

システムファイル

感染したシステムファイル(たとえば、IO.SYS、MSDOS.SYSなど)は削除できません。Windowsを再インストールする必要があります。

書き込み禁止にした未感染のフロッピーディスクを使ってコンピュータを再起動し、Windowsを再インストールしてください。起動に使えるフロッピーディスクは救済ブートディスク、Windowsをインストールしたときに作成したWindows起動ディスクなどです。

ウィルスの予防

この章ではウィルスの侵入を防ぐための基本的な心得を示します。まず、コンピュータウイルスとは何かを説明します。次に、ウイルスが感染を防ぐための Auto-Protect の使い方を説明します。最後に新種のウイルスに対応するために欠かせない LiveUpdate について説明します。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは単純に言うと悪意のあるプログラムによって書かれたコンピュータプログラムです。コンピュータウイルスの感染源はフロッピーディスクやその他のリムーバブルディスク、LAN、インターネットなどです。カゼのウイルスが人間に感染するように、コンピュータウイルスはコンピュータの実行可能ファイルに感染します。そして、いったん感染すると治りにくい点もカゼのウイルスとよく似ています。

ウイルスがすること

ユーザーが知らないうちにコンピュータの制御を奪います。

コンピュータ上で奇妙な現象(たとえば、ピープ音が鳴る、不快なメッセージが表示されるなど)を誘発します。

マクロの中に隠れて Word の文書や Excel のワークシートに感染や伝染します。(このようなウイルスをマクロウイルスといいます。)

一部のウイルスは破壊的な活動をしします。データを損傷したり、ファイルを削除したり、ハードディスクを完全に消去することさえあります。

ウイルス内に事前に定義された日付(たとえば、13日の金曜日)までは活動しないで潜伏し、その日に大破壊をもたらします。

ウイルスがしないこと

キーボードやディスプレイなどのハードウェアを損傷することはありません。画面の乱れや入力した文字が表示されないなどの奇妙な現象も、実際には表示やキーボードを制御するプログラムにウイルスが影響しているにすぎません。ディスク自体が物理的に損傷しているのではなく、ディスクに格納してあるデータが損傷しているだけです。

トロイの木馬について

トロイの木馬はウィルスではありませんが、潜在的にはウィルスと同種の問題が起きる原因になります。トロイの木馬の活動としては次のような例があります。

不快なメッセージを表示またはハードディスクの内容を削除します。

ユーザーのログインIDやパスワードを盗んでそれらを電子メールで別のユーザーに送信します。受け取ったユーザーがそのアカウントを使うと元のユーザーが料金を負担することになります。

通常、トロイの木馬はオンラインでプログラムをダウンロードすることによって感染します。一見すると実用性または娯楽性があるように見えるプログラムをダウンロードして実行すると、悪質なコードが活動を開始します。トロイの木馬は増殖または伝染しないという点でウィルスとは異なります。感染経路は電子メールまたはディスクを経由して伝染するか、またはコンピュータに直接ダウンロードされます。

ワームについて

ウィルスと同様にワームは増殖します。ただし、ファイル間の伝染ではなくコンピュータ間の伝染でシステム全体に感染します。

コンピュータワームはネットワークを介して(たとえば、電子メールを使って)コンピュータ間で自分自身を複製するように設計されているプログラムです。ワームはネットワークを介して多くのコンピュータに伝染しますが、人の助けを待つことはありません。つまり、コンピュータワームはコンピュータウィルスよりもはるかに迅速に伝染できます。

Norton AntiVirus が自動的にすること

Norton AntiVirus は感染源にかかわらずコンピュータをウィルス感染から守ります。Norton AntiVirusはハードディスクやフロッピーディスクから伝染するウィルス、ネットワークを通して伝わるウィルス、インターネットからダウンロードされるウィルスを検出します。

ウィルスを除去してファイルを修復します。

コンピュータの起動時にシステムにウィルスがないことを確認します。

外部から入手または自分で作成したプログラムやデータファイルを使うたびにウィルスがないかどうか調べます。

フロッピーディスクやリムーバブルディスクの挿入時にウィルススキャンします。

電子メールメッセージの受信時に添付ファイルをウイルススキャンします。

ウイルスの活動を示す異常な動作がないかどうかコンピュータを監視します。

1週間に1回の定時スキャンを実行することによってコンピュータのハードディスクドライブにウイルスがないことを確認します。圧縮ファイルの中のファイルも完全にスキャンされます。

インターネットを媒介とするウイルスからコンピュータを完全に保護します。別のプログラムを呼び出したりNorton AntiVirusのオプションを変更する必要はありません。プログラムやデータファイルのダウンロード時にAuto-Protectが自動的にスキャンします。

自動LiveUpdateが有効な場合、インターネットの接続時にウイルス定義の更新版があるかどうかを調べ、もしあればそれをインストールします。

ユーザーがしなければならないこと

世の中には毎日のように新種のウイルスが増え続けています。新種のウイルスに対応するにはウイルス定義ファイルを定期的に更新する必要があります。ウイルス定義ファイルを更新しないとNorton AntiVirusをインストールした後で発見された新種のウイルスに対応できません。

シマンテック社から最新のウイルス定義ファイルを定期的に入手します。LiveUpdateを実行すればコンピュータ上のウイルス定義ファイルを簡単に更新できます。詳しくは後の「新種のウイルスへの対応」を参照してください。

コンピュータのハードウェアまたはオペレーティングシステムに変更を加えたら救済ディスクセットを更新します。新しいウイルス定義ファイルを入手したときにも救済ディスクセットを更新する必要があります。詳しくは「第3章 救済ディスクセット」を参照してください。

ウイルスを避けるためのヒント

コンピュータウイルスを避けるためには次のことを心がけてください。

コンピュータにNorton AntiVirusをインストールし、システムトレイにNorton AntiVirusアイコンが表示されていることを確認します。Norton AntiVirusを起動してリアルタイムスキャン(Auto-Protect)が有効になっていることを調べます。

最新のウイルス定義を入手するために定期的にLiveUpdateを実行します。そうすることでNorton AntiVirusの出荷後に発見された新種のウイルスに対応できます。

予期しない電子メールやウィルスがいるかもしれない添付ファイルのある電子メールに注意します。

ソフトウェアは必ず正規の製品を購入します。バックアップディスクを安全な場所に保管します。

外部から受け取るすべてのディスク上のファイルをスキャンします。第6章の「ウィルススキャン」を参照してください。

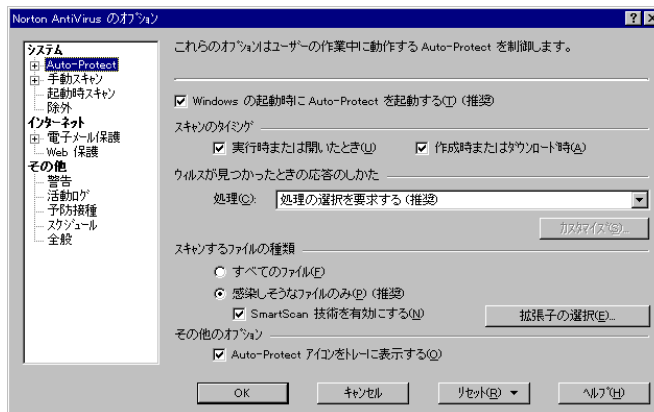
Auto-Protect による監視

Norton AntiVirusをインストールしてコンピュータを再起動するとAuto-Protectがオンになります。Auto-Protectはユーザーの作業中にバックグラウンドで動作してウィルスまたは有害なコードの侵入を自動的に監視し、ウィルスが見つかったと警告を表示します。

Auto-Protectが働いているかどうかはNorton AntiVirusのメインウィンドウまたはシステムトレイのアイコンを見れば確認できます。コンピュータを最大限に保護するには、次の手順に従ってコンピュータの起動時にAuto-Protectがロードされていることを確認してください。

Auto-Protect の起動時のロードを確認するには

- 1 Norton AntiVirus メインウィンドウ上部にある [オプション(O)] ボタンをクリックします。
- 2 左パネルで [Auto-Protect] を選択します。



- 3 [Windowsの起動時にAuto-Protectを起動する(T)] にチェックマークが付いていることを確認します。

- 4 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

Auto-Protect の切り替え

通常、Auto-Protect をオフにする必要はありません。しかし、一部のプログラムはインストール時に Auto-Protect のようなウイルス監視プログラムをオフにするように要求することがあります。そのような場合には Auto-Protect のオンとオフを切り替えることができます。

Auto-Protect を一時的にオフにするには

システムトレイにある Norton AntiVirus アイコンを右クリックして [Auto-Protect を無効にする(D)] を選択します。

Auto-Protect がオフになるとシステムトレイのアイコンに赤い×印が付きます。

Auto-Protect をオンに戻すには

システムトレイにある Norton AntiVirus アイコンを右クリックして [Auto-Protect を有効にする(E)] を選択します。

Auto-Protect がオンになるとシステムトレイのアイコンに付いていた赤い×印が消えます。

システムトレイにアイコンを表示していない場合は、次の操作でオンとオフを切り替えます。

- 1 Norton AntiVirus のメインウィンドウの左パネルで [システムの状態(Y)] をクリックします。
- 2 右パネルのリストから [リアルタイムスキャン] をダブルクリックします。
- 3 [システム状態の詳細] ダイアログボックスで [はい(Y)] をクリックします。

新種のウイルスへの対応

Norton AntiVirus は最新の情報に基づいてウイルスを検出や除去します。LiveUpdate を使うとシマンテック社のサイトから次のファイルを入手できます。

最新のウイルス定義

Norton AntiVirus プログラムの更新版

LiveUpdate を実行するにはインターネット接続が必要です。

LiveUpdate によるウィルス定義の更新

ウィルス感染が起きる最も一般的な原因の1つは製品を購入した後でウィルス定義を更新していないことです。シマンテック社はウィルス定義ファイルを定期的に更新し、最新版をシマンテック社のサイトに用意します。

LiveUpdateは最新のウィルス定義ファイルを入手するための最も簡単な方法です。メインウィンドウで[LiveUpdate(L)]ボタンをクリックするだけで、最新のウィルス定義ファイルが自動的にダウンロードされ、コンピュータにインストールされます。

LiveUpdate を使ってウィルス定義を更新するには

- 1 Norton AntiVirusのメインウィンドウ上部にある[LiveUpdate(L)]をクリックします。
- 2 画面の指示に従って操作します。

LiveUpdateが完了するとコンピュータ上のウィルス定義が更新されて最新になります。ウィルス定義の作成日は[システムの状態(Y)]の右パネルのリストに表示されます。

最新 Norton AntiVirus の入手

LiveUpdateを使うとウィルス定義だけでなくNorton AntiVirusプログラムの最新版も入手してコンピュータ上のプログラムを更新できます。

メモ LiveUpdate による Norton AntiVirus の更新は無料です。ただし、インターネットアクセスの料金や電話料金がかかります。

LiveUpdate を使って Norton AntiVirus を更新するには

- 1 Norton AntiVirusのメインウィンドウ上部にある[LiveUpdate(L)]をクリックします。
- 2 画面の指示に従って操作します。

Norton AntiVirus の使い方

6

この章では Norton AntiVirus のウイルススキャンについて説明します。レポートとスケジュール機能の概要も示します。最後に Norton AntiVirus の動作をカスタマイズする手順を示します。

ウイルススキャン

スキャナはスキャンエンジンとも呼ばれ、Norton AntiVirus 保護の心臓部に相当するプログラムです。Norton AntiVirus がウイルススキャンを開始すると、スキャナがファイルの中に既知のウイルスのシグネチャを検索します。スキャナは予防接種済みブートレコードの変更を検証する働きもします。

スキャンの種類

Norton AntiVirus には次のようなスキャンの種類が用意されています。

手動スキャン

ユーザーが Norton AntiVirus のメインウィンドウの左パネルで [ウィルススキャン(F)] を選択し、右パネルで [今すぐにスキャン(U)] をクリックすることによって開始するスキャンです。コンピュータ上の特定のファイル、フォルダ、フロッピーディスクに入っているウイルスを検出するのに便利です。

定時スキャン

スケジューラによって自動的に実行されるスキャンです。Norton AntiVirus をインストールするとデフォルトで1週間に1回の定時スキャンが設定されます。

起動時スキャン(Windows 95/98 のみ)

コンピュータを起動するたびに自動的に実行されるスキャンです。ブートレコードやシステムファイルに感染するウイルスを検出するための重要な保護です。起動時スキャンを実行するかどうかは [オプション] ダイアログボックスの [起動時スキャン] パネルで設定できます。

Auto-Protect

Norton AntiVirus の自動保護機能です。Auto-Protect はユーザーの作業中にバックグラウンドで動作してウイルスまたは有害なコードの侵入を自動的に監視します。既知のウイルスだけでなく Bloodhound 技術によって未知のウイルス

やウイルスらしい活動も検出します。Norton AntiVirusをインストールするとデフォルトで Auto-Protect がオンになります。

電子メールスキャン

電子メール保護ともいいます。電子メールメッセージの受信時に添付ファイルにウイルスがないかどうかを調べるリアルタイムのスキャンです。

ドライブのスキャン

手動スキャンは実行したいときにいつでも開始できます。スキャンする対象として指定できるのはハードディスクドライブ、ネットワークドライブ、フロッピーディスク、個々のフォルダやファイルなどです。ハードディスクの定期的なスキャンをスケジュール設定するとともに、フロッピーディスクを使う前には必ずスキャンすることをお勧めします。

ドライブをウイルススキャンするには

- 1 Norton AntiVirusメインウィンドウの左パネルで[ウィルススキャン(F)]をクリックします。
- 2 右パネルのリストでスキャンしたい項目を選択します。

メモ スキャンしたい項目がリストにない場合には[スキャンの追加(N)]をクリックし、ウィザードの指示に従ってカスタムスキャンを作成します。

- 3 [今すぐにスキャン(U)] をクリックします。

ヒント 単一のドライブ、フォルダ、ファイルをスキャンするには、マイコンピュータまたはWindowsエクスプローラでスキャンしたい項目を右クリックして表示されるメニューで [Norton AntiVirus を使ってスキャン(S)] を選択してください。

電子メールの保護

Norton AntiVirusは電子メールが電子メールプログラムに到達する前にそのメールを阻止してスキャンします。このために電子メールクライアントプログラムのユーザー名とサーバー名を修正します。サーバー名はPop3.norton.antivirusに変更され、ユーザー名は実際のユーザー名と電子メールサーバー名の組み合わせに変更されます。これらの設定と、Norton AntiVirusで認識されないPOP3電子メールクライアントを設定する方法についてはヘルプのキーワードで「電子メール」を検索してください。

Norton AntiVirusが着信メールをスキャンしているとき、Windowsのタスクバーに電子メールスキャンアイコンが表示されます。

大きな添付ファイルのダウンロード中は、十分な速さで情報を受信していないため電子メールプログラムの警告が表示されることがあります。これは電子メールクライアントに渡す前にNorton AntiVirusが添付ファイル全体を調べる必要があるからです。この種類のメッセージが表示された場合には[電子メールスキャンを時間切れから保護する(P)(推奨)]にチェックマークを付けてください。

時間切れ保護が有効になっていることを確認するには

- 1 Norton AntiVirusメインウィンドウ上部にある[オプション(O)]ボタンをクリックします。
- 2 左パネルで[電子メール保護]の左のプラス記号(+をクリックします。
- 3 [拡張]をクリックします。
- 4 [電子メールスキャンを時間切れから保護する(P)(推奨)]にチェックマークが付いていることを確認します。

レポート

Norton AntiVirus メインウィンドウの左パネルで[レポート(E)]を選択すると、レポートに関するオプションが右パネルに表示されます。Norton AntiVirusには次のようなレポート機能があります。

検疫ウィンドウ

Norton AntiVirusの検疫プログラムはコンピュータ上の感染ファイルを特別な領域に隔離します。検疫ウィンドウを使うと検疫項目を確認できます。分析用のファイルをインターネット経由でSARCに送信することもできます。

活動ログ

Norton AntiVirusは実行したすべての活動を記録してログファイルに保存します。活動ログを見るとそれまでにどのようなスキャンが実行されどのような問題が見つかったかがわかります。活動ログはプリンタで印刷したり、テキストファイルに保存して他のアプリケーションで利用できます。

ウィルスリスト

ウィルスリストにはウィルス定義ファイルの情報に基づいて識別されるウィルスの名前が表示されます。ウィルスごとの説明、感染した場合の症状、別名も表示できます。ウィルスリストはNorton AntiVirusで検出されたウィルスを確認するときに役立ちます。

スケジュール

Norton AntiVirusをインストールすると自動的に1週間に1回の定時スキャンが設定されます。1週間に1回ずつ定期的にハードディスクをスキャンすればコンピュータにウィルスがないことを確認できます。

Norton AntiVirus メインウィンドウの左パネルで[スケジュール(C)]を選択すると任意の定時スキャンまたはスキャン以外の定時イベントを作成できます。

たとえば、電子メールやインターネット経由で受け取るすべての着信ファイルを格納するダウンロードフォルダを作成し、そのフォルダに対して1日に1回の定時スキャンを実行するという使い方ができます。

または、2週間に1回のタイミングでLiveUpdateを実行して最新のウィルス定義

を自動的に入手できるようにすると便利です。2週間に1回のタイミングでイベントを実行するには1週間に1回の定時イベントを2つ作成(1つを作成してからコピー)し、半月ずらした(1日と15日というような)日付を指定します。

定時イベントを作成するには

- 1 Norton AntiVirusメインウィンドウの左パネルで[スケジュール(C)]をクリックします。
- 2 右パネルで[イベントの追加(N)]をクリックします。
スケジュールウィザードが起動します。
- 3 [次へ(N)]をクリックします。
- 4 イベントの種類を選択して[次へ(N)]をクリックします。Norton AntiVirusで作成できるイベントには次の4種類があります。
 - ウィルススキャン
 - LiveUpdateの実行
 - 別のプログラムの実行
 - メッセージの表示
- 5 ウィザードの指示に従ってオプションを選択し、イベント名を付けて[次へ(N)]をクリックします。
ここで入力するイベント名がスケジュールのイベント名に表示されます。(たとえば、「午後5時のスキャン」というように見分けやすい名前を入力してください)。
- 6 イベントの頻度を選択して[次へ(N)]をクリックします。[1回(O)]を選択すると1回だけのイベント、それ以外を選択すると定期イベントになります。
- 7 日時またはそのいずれかを設定して[次へ(N)]をクリックします。
- 8 [完了]をクリックします。

Norton AntiVirus のカスタマイズ

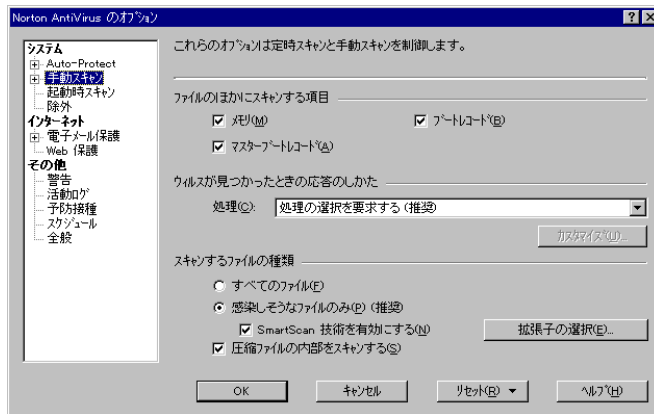
Norton AntiVirusの事前設定オプションはほとんどのユーザーに最適なはずですが、しかし、必要な場合には作業環境に合わせてカスタマイズできます。

たとえば、ハードディスクのスキャンにかかる時間を短くしたい場合にはスキャンするファイルの種類として [すべてのファイル(F)] ではなく [感染しそうなファイルのみ(P)] を選択することでスキャンの対象になる項目数を減らすことができます。

Norton AntiVirus をカスタマイズするには

- 1 Norton AntiVirus のメインウィンドウ上部にある [オプション(O)] ボタンをクリックします。

[Norton AntiVirus のオプション] ダイアログボックスが表示されます。



- 2 左パネルで設定したいオプションのカテゴリを選択します。カテゴリ名の左にあるプラス記号(+)をクリックすると下位のカテゴリが表示されます。

選択したカテゴリに関するオプションが右パネルに表示されます。

トラブルシューティング

7

この章では、Norton AntiVirusを使っているときに起きやすい一般的な問題と対策を示します。テクニカルサポートに連絡する前に、ここに示す手順に従って問題の解決を試みてください。

救済ブートディスクが動きません

原因 1 ハードディスクの製造元は製品ごとに設定や初期化のための固有の技術を使うので、Norton AntiVirusは必ずしもブート可能な救済ブートディスク(救済ディスクセットの1枚目)を自動的に作成できるとは限りません。

対策 1 次のいずれかの方法を試します。

コンピュータ用の特別なブートディスクがある場合には、それをNorton AntiVirus救済ディスクセットに追加します。ウイルスによる緊急時には、(書き込み禁止にした状態で)そのディスクから起動します。コンピュータが起動したらドライブからディスクを取り出し、救済ブートディスク(救済ディスクセットの1枚目)を挿入します。DOSプロンプトでA:RSHELLと入力してからEnterキーを押し、画面の指示に従って操作します。

ディスクマネージャまたはコンピュータに付属の類似のプログラムを使って救済ブートディスクをブート可能にします。修正した救済ブートディスクを確認のためにテストしてください。

Norton Zip救済ディスクセットがうまく動かない場合には救済ブートディスクに入っているTROUBLE.TXTファイルを参照してください。ブートディスクをブート可能にします。修正した救済ブートディスクを確認のためにテストしてください。DOSプロンプトでA:VIEW < TROUBLE.TXTと入力してEnterキーを押すと表示されます。

原因 2 1台のコンピュータに2つ以上のオペレーティングシステム(たとえば、Windows NTとWindows 95)が入っていると救済ブートディスクがうまく動かないことがあります。

対策 2 次の手順でディスクを修正します。

- 1 コンピュータをハードディスクから起動し、救済ブートディスクをドライブAに挿入します。

- 2 DOS プロンプトでSYS A:と入力してEnter キーを押します。この操作によってオペレーティングシステムのファイルが救済ディスクセットにコピーされます。
- 3 確認のために救済ブートディスクでコンピュータを再起動します。

詳しくは第3章の「救済ディスクセットの作成」を参照してください。

「救済ディスクセットを使ってください」という警告メッセージが表示されます。しかし、救済ディスクセットを作成していません。

対策 救済ディスクセットの代わりに緊急用ディスクセットを使います。緊急用ディスクセットを作成する手順と使い方については第1章の「インストール時のウィルス除去」を参照してください。

コンピュータをフロッピーディスクドライブでブートできません。

原因1 コンピュータが起動時にフロッピーディスクドライブを調べない場合、通常はコンピュータのセットアッププログラムを使って設定を変更する必要があります。

注意 コンピュータのセットアッププログラムを使って変更をするときには注意してください。特に初めて使う場合には、セットアッププログラムを起動する前にコンピュータのハードウェアのマニュアルに目を通してください。

対策1 設定を変更するために次の操作を完了します。

- 1 コンピュータを再起動します。

画面に次のようなメッセージが表示されたらキーを押すことでセットアッププログラムを起動できる状態です。

Press F1 for Setup.

- 2 画面の指示に従ってキーをいくつか押し、セットアッププログラムを起動します。
- 3 ブートシーケンスをA: C: に設定します。

セットアッププログラムはハードウェアの製造元ごとに異なります。ブートシーケンスオプションが見つからない場合には、セットアッププログラムのヘルプかシステムに付属のマニュアルを参照するか、またはシステムの製造元に問い合わせてください。

- 4 変更を保存してセットアッププログラムを終了します。

- 原因2 救済ブートディスクではなく特別なブートディスクを使う必要があります。
- 対策2 コンピュータに付属のブートディスクまたは起動ディスクを使ってください。
- 原因3 コンピュータに2つ以上のオペレーティングシステム(たとえば、Windows NT と Windows 95)がインストールされています。
- 対策3 この章の最初の「救済ブートディスクが動きません」の対策を参照してください。

コンピュータの起動時に Norton AntiVirus の Auto-Protect がロードされません。

Windows タスクバー右端に Norton AntiVirus Auto-Protect アイコンがない場合、Auto-Protect はロードされていません。原因としては2つのことが考えられます。

- 原因1 Windows 95/98/Me がセーフモードで起動したためです。シャットダウンが正常に完了しないと Windows はセーフモードで再起動します。たとえば、Windows のスタートメニューで [Windows の終了(U)] を選択する前にコンピュータの電源を切った場合にそうなります。
- 対策1 Windows のスタートメニューで [Windows の終了(U)] を選択し、[再起動する(R)] を選択して [はい(Y)] をクリックします。
- 原因2 Norton AntiVirus の設定が Auto-Protect を自動的に起動する状態になっていません。
- 対策2 次の手順で操作します。
- 1 Norton AntiVirus のメインウィンドウ上部にある [オプション(O)] ボタンをクリックします。
 - 2 左パネルで [Auto-Protect] を選択します。
 - 3 [Windows の起動時に Auto-Protect を起動する(T)] にチェックマークを付けます。
 - 4 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

スキャンしてウィルスを除去しましたが、まだファイルにウィルスが感染しています。

ウィルス感染が続く理由としてはいくつかの原因が考えられます。

原因1 Norton AntiVirusのスキャン対象になっていない拡張子が付くファイルにウィルスがいる可能性があります。

対策1 次の手順で操作します。

- 1 Norton AntiVirusメインウィンドウ上部にある[オプション(O)]ボタンをクリックします。
- 2 左パネルで [手動スキャン] を選択します。
- 3 [スキャンするファイルの種類] グループで [すべてのファイル (F)] にチェックマークを付けます。
- 4 [手動スキャン] の左のプラス記号(+)をクリックします。
- 5 [Bloodhound] をクリックします。
- 6 [ヒューリスティックスキャンの感度レベル(U)] を [最高の保護レベル] に設定します。
- 7 [OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じ、設定を有効にするためコンピュータを再起動します。
- 8 使っているすべてのディスクをスキャンしてすべての感染ファイルを修復します。

原因2 感染源はフロッピーディスクです。

対策2 使っているすべてのフロッピーディスクをウィルススキャンします。

原因3 ブートレコードからウィルスを除去した後もメモリにウィルスが残っている可能性があり、ブートレコードに再び感染します。

対策3 救済ディスクセットを使ってウィルスを除去します。第3章の「救済ディスクセットの使い方」を参照してください。

感染ファイルを Norton AntiVirus が修復できません。

原因1 Norton AntiVirusが感染ファイルを修復できない理由として最も考えられるのは最新のウィルス定義ファイルがコンピュータ上にないことです。新種のウィルスからコンピュータを保護するにはウィルス定義ファイルを定期的に更新する必要があります。

対策1 コンピュータ上のウイルス定義を更新するには、メインウィンドウで [LiveUpdate(L)] ボタンをクリックします。

原因2 LiveUpdate を使ってもまだ感染ファイルを修復できない場合、ファイルが壊れているか、または最新のウイルス定義ファイルに定義が入っていない新種のウイルスが感染している可能性があります。

対策2 2つの方法があります。

ファイルを検疫してSARCに提出します。詳しくは第3章の「SARC へのファイルの提出」を参照してください。

感染ファイルを削除します。感染ファイルがプログラムだった場合、インストールディスクでプログラムを再インストールします。感染ファイルがデータファイルだった場合、未感染のバックアップがあればバックアップディスクからコピーし直します。

Norton AntiVirus の機能のいくつかをパスワード保護した後でパスワードを忘れてしまいました。

対策 Norton AntiVirus をアンインストールしてから再インストールします。再インストール後のNorton AntiVirusはパスワード保護されていない状態です。

基本救済ディスクセットをテストするとエラーが表示されます。

原因1 救済ディスクセットをテストしたときに「Non-system disk, replace disk and press any key」というメッセージが表示された場合、フロッピーディスクのブートファイルが正しく用意されていない可能性があります。

対策1 ディスクを再フォーマットしないでこれを修復して新しい救済ディスクセットを作成するには、次の手順で操作します。

- 1 救済ディスクを取り出してコンピュータを再起動します。
- 2 救済ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- 3 スタートメニューで [ファイル名を指定して実行(R)] を選択します。
- 4 [ファイル名を指定して実行] ダイアログボックスで次のように入力します。

SYS A:

- 5 [OK] をクリックします。

電子メールを受信できません。

原因 Norton AntiVirusの電子メール保護を有効にした状態で電子メールをダウンロードするときに問題があります。

対策 次の方法を試します。

電子メール保護を一時的に無効にします。こうすると問題の電子メールがダウンロードできるようになり、電子メール保護を再び有効にできる可能性があります。電子メール保護が無効の間はAuto-Protectで保護されます。次の手順で電子メール保護を一時的に無効にします。

- 1 Norton AntiVirus メインウィンドウ上部にある [オプション (O)] ボタンをクリックします。
- 2 左パネルで[インターネット]の[電子メール保護]をクリックします。
- 3 電子メールクライアントの左のチェックマークをはずします。
- 4 電子メールをダウンロードします。
- 5 電子メール保護を再び有効にします。

POPProxy が実行中であることを確認します。POPProxy は Norton AntiVirusの電子メールスキャナで、Windowsの起動時に起動するはずです。

POPProxy が実行中であるかどうかを判断するには、Ctrl キー、Alt キー、Del キーを同時に押して Windows タスクリストを表示し、POPProxy というプログラムを検索します。

POPProxy がリストにない場合には¥Program Files¥Norton AntiVirus¥POPProxy.exe ファイルからのショートカットをコンピュータのStartupフォルダに追加します。ショートカットの作り方とコンピュータのStartupフォルダについて詳しくはWindowsヘルプを参照してください。

電子メール保護を無効にします。電子メールをダウンロードするときにまだ問題が起きる場合には次の手順で電子メール保護を無効にします。

- 1 Norton AntiVirus メインウィンドウ上部にある [オプション (O)] ボタンをクリックします。
- 2 左パネルで[インターネット]の[電子メール保護]をクリックします。

3 電子メールクライアントの左のチェックマークをはずします。

電子メールクライアントを手動で再設定します。電子メール保護を無効にしても問題が解決しない場合には電子メールクライアントを手動で再設定する必要があります。電子メールクライアントプログラムでユーザー名とPOP3サーバー名をISPが提供する値に変更します。この操作について詳しくはヘルプのキーワードで「電子メール」を検索してください。

テクニカルサポートからのご案内

この度は、弊社製品をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

この冊子では、製品をご使用いただく前にまず知っておいていただきたい以下の内容についてご案内しております。

ユーザーサポート及びユーザーサービスについて

テクニカルサポートセンターのご案内

カスタマーサービスセンターのご案内

ショップシマンテックのご案内

製品をインストールする前に

常駐プログラムの停止方法 (Windows95/98 版をご使用の方)

CD-ROM 起動でのインストール (Macintosh 版をご使用の方)

ReadMe ファイル (Macintosh 版は「お読みください」になります)

サポート情報 & FAQ ナレッジベース

LiveUpdate 機能

定義ファイル

Norton AntiVirus をご利用のお客様へ

既にコンピューターウィルスに感染している場合のインストール

ウィルスの感染報告

ウィルス定義ファイル

Norton Utilities 及び Norton SystemWorks をご利用のお客様へ (Windows 版)

常駐プログラムの解除

注意 記載しております各連絡先及び内容につきましては、今後変更、追加されることもあり得ます。変更及び追加された内容につきましては弊社ホームページ (<http://www.symantec.com/region/jp/support/>) でご案内いたしますので、そちらをご参照ください。

ユーザーサポート及びユーザーサービスについて

シマンテック社ではサポート及びサービスのために、次の3つの窓口をご用意しております。

テクニカルサポートセンター

カスタマーサービスセンター

ショップシマンテック(アップグレードセンター)

それぞれの窓口で受け付けておりますお問い合わせ内容及びお問い合わせ方法は以下のとおりです。

テクニカルサポートセンター

ご購入された弊社製品に関する操作方法、障害などの技術的なご質問にお答えします。

お問い合わせ手順

- 1 まずは、弊社ホームページのサポート情報またはFAQナレッジベースをご参照いただくことをお勧めいたします。(サポートセンターの電話は大変混み合っております。サポートセンターによく寄せられる内容はこちらで公開しておりますので、まずこちらでご確認ください)
- 2 サポート情報またはFAQナレッジベースで問題が解決しなかった場合には、恐れ入りますがWebページ上のオンラインサポートのご利用、またはお電話・FAXでテクニカルサポートセンターまでお問い合わせください。

注意事項

2によるサポートは、ユーザー登録を完了しCustomer IDを所持している方に限ります。ユーザー登録を完了されていない場合は、以下のURLより登録ができます。ただしCustomer IDが使用できるまでに登録後30分程度かかりますので予めご了承ください。

<http://www.symantec.com/region/jp/support/>

オンラインサポートをご利用の場合は、最低限の情報を入力していただく上で、お問い合わせいただく必要があります。

オンラインサポートはご回答まで多少お時間をいただきますので、予めご了承ください。

お電話でお問い合わせの場合は、CD-ROM内の「障害調査票」(ファイル名：SUPPROT.pdf)をお手元に準備した上でお問い合わせください。

FAXでお問い合わせの場合は、CD-ROM内の「障害調査票」(ファイル名：SUPPORT.pdf)に必要事項を明記してお送りください。

サポートセンターの電話が大変混み合い、電話が繋がりにくい事があります。お時間の余裕がありましたらオンラインサポートをご利用いただくようお願いいたします。

ホームページの URL 及びテクニカルサポートセンターの連絡先は次のとおりです。

サポート情報・FAQ ナレッジベース)

<http://www.symantec.com/region/jp/support/>

オンラインサポート

<http://www.symantec.com/region/jp/support/>

テクニカルサポートセンター

TEL: 03-3476-1118

(受付時間: 土日祝祭日を除く月～金、10:00～12:00、13:00～17:00)

FAX: 03-3477-1118 (24時間受付)

カスタマーサービスセンター

弊社製品に関する購入前のご相談や購入後のユーザー登録に関するご質問等のお問い合わせにお答えします。

ユーザー登録

テクニカルサポート、アップグレード等の十分なアフターサービスを提供するためにユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただきますと Customer ID が発行されます。

Customer ID

ユーザー登録を完了された方に対して、シマンテック社より発行される ID です。初めてシマンテック製品をご登録いただいた場合に、原則 1 ユーザーに対し Customer ID が 1 つ発行され、以後シマンテック製品を登録されると、製品シリアル番号はこの Customer ID によって統括して管理されます。

注意事項

Customer ID は原則として 1 ユーザーに対し 1 つですが、以下の場合には初めての登録として、新たに別の Customer ID が発行される場合がございます。この場合でも後から 1 つにまとめることができます。

既に Customer ID を所持しているにも関わらず、製品登録時に Customer ID の記載がなかった場合

登録内容(住所・氏名)に若干の違いが発生している場合

製品シリアル番号

製品を登録いただいた際に製品毎に発行されるシリアル番号です。

ご登録後の登録内容の確認・変更手続き

以下の URL で登録内容の確認、変更を行うことができます。

ただし Customer ID の統合や一部 Web からの変更手続きをお断りしている内容の変更につきましては、カスタマーサービスセンターまでお問い合わせください。

<http://www.symantec.com/region/jp/support/>

ユーザー登録方法

LiveReg機能によるオンライン登録(インストールの最後にウィザードが表示されます)

ホームページからのオンライン登録(<http://www.symantec.com/region/jp/support/>)

登録ハガキによる登録

FAXによる登録(登録ハガキに必要事項を明記して03-3476-1159へ送付してください)

注意事項

LiveReg機能またはホームページで登録する場合はインターネットに接続できる環境が必要です。

LiveReg 機能は Macintosh 版及び Windows 版の一部の製品ではご利用いただけません。

FAX で登録される場合は FAX 番号をお間違いないようお願いいたします。

LiveReg 機能で登録する場合に「SSL 経由の接続を確立できませんでした」といメッセージが表示されることがあります。登録データ送信時に、特に SSL によるセキュリティ保護を必要としない方は「そのまま続行」で登録を行ってください。登録データの送信時にセキュリティ保護をご希望の場合には、LiveReg 機能による登録ではなく、弊社ホームページからのオンライン登録をお勧めいたします。

カスタマーサービスセンターの連絡先は次のとおりです。

カスタマーサービスセンター

TEL:03-3476-1156

(受付時間: 土日祝祭日を除く月～金、10:00～12:00、13:00～17:00)

FAX:03-3476-1159

ショップシマンテック

ご登録されている製品のアップグレードサービスを受け付けております(従来のアップグレードセンターはショップシマンテックに統合されました)

注意 製品によってはアップグレードサービスのサービス提供期間を終了している場合もございます。

ショップシマンテックの連絡先は次のとおりです。

ショップシマンテック

TEL:03-3476-1192

(受付時間:土日祝祭日を除く月~金、10:00~12:00、13:00~17:00)

FAX:03-3780-9988

<http://shop.symantec.co.jp/>

製品をインストールする前に

常駐プログラムの停止方法(Windows95/98版をご使用の方)

インストールを開始する前に、Windowsのタスクバーに常駐しているプログラム等を停止してからインストールすることをお勧めします。

Windowsではウィンドウの表示やアプリケーションの使用の際に割り当てられるリソースがあります。システムリソースの不足は物理メモリの増設では解消されません。常駐プログラムの整理をし、システムリソース不足により起こる障害を防ぎましょう。

Windowsのシステムリソース

物理メモリを増設してもシステムリソースの不足が解消しないのは、Windowsで使用できるシステムリソースの最大容量がWindowsによって固定されているからです。また16bitアプリケーションで使用できるリソースに関しては、予約されたリソース内でさらに厳しく固定されています。

一般的に、システムリソースが激しく消費される原因として、以下の原因が考えられます。

多数のウィンドウ表示によるUSERリソースの消費

バックグラウンドに常駐するアプリケーションによるUSERリソースの消費

16bitアプリケーション、16bitプロセスによるリソースの消費

デスクトップ上に多数のアイコンを表示することによるGDIリソースの消費

リソースの消費が著しい場合は、以下の操作に従って常駐の解除を行ってください。また16bitアプリケーションが多数動作しているのであれば32bitバージョンへのアップグレードを試してください。

以下の操作によって障害が改善された場合は、ご使用の常駐プログラムによるWindowsへの負荷が原因だと判断できます。この場合、ご使用の常駐プログラム

を整理し、本当に必要な機能のみを常駐することで、今後同様の原因で起きる障害を予防できるはずです。常駐プログラムの整理を必ず行ってください。

常駐プログラムの停止方法

《Windows98 をご使用の方》

- 1 スタートメニューで [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- 2 名前欄に msconfig と入力して [OK] ボタンをクリックします。
- 3 システム設定ユーティリティーが起動します。
- 4 [スタートアップ] を選択し、下記以外の全てのプログラムのチェックを解除します。

SystemTray

Internat.exe

Norton 製品

- 5 システム設定ユーティリティーを終了します。

《Windows95 をご使用の方》

- 1 [スタート] ボタンを右クリックし [開く] を選択します。
- 2 [スタートメニュー] フォルダから [プログラム] フォルダを開きます。
- 3 [プログラム] フォルダから [スタートアップ] フォルダを開きます。
- 4 表示されたショートカットアイコンの中からNorton製品以外の全てのショートカットアイコンを一時的にデスクトップに移動し、フォルダ を閉じます。
- 5 スタートメニューで [ファイル名を指定して実行] を選択します。
- 6 [名前] に sysedit と入力し [OK] ボタンをクリックします。
- 7 起動したシステムエディタのウィンドウの中から、C:¥Windows¥Win.ini ウィンドウをクリックしアクティブにします。
- 8 [Windows] の項目の中に load= と run= の行があったら、以下のように行の先頭に REM と入力します。

```
REM load=poi.exe
```

```
REM run=que.exe
```

ヒント load= と run= の後に何も記述がなければこの操作を行う必要はありません。

- 9 システムエディタを保存して終了します。

注意 ここでの操作方法はWindows95/98の場合です。最新のWindows OS、その他のWindows OSでの操作方法および注意事項についてはFAQでご案内いたしておりますのでそちらを参照してください。また常駐解除を行った場合には、変更した設定を元に戻し、コンピュータを再起動させ常駐解除を行ったプログラムを再び常駐させることをお勧めします。詳細はFAQを参照してください。

CD-ROM起動でのインストール (Macintosh版をご使用の方)

インストールを行う前に製品CD-ROMから起動し、DiskDoctorやNorton AntiVirusを実行し、インストール対象のディスクに問題がないことを確認してください。

ただしご使用の機種が発売時期の関係でCD-ROMに含まれるMac OSでは起動できない場合があります。

ヒント CD-ROMに含まれるMac OSのバージョンはCD-ROMのラベル面に記載されています。また製品パッケージ裏面や弊社Webページに起動確認機種についての記載がありますので参照してください。

CD-ROMから起動できない場合には、ハードディスクから起動している状態でインストールを行えます。その場合にも、必ずインストール前にCD-ROM内からDiskDoctor、Norton AntiVirusを実行し、インストール対象のディスクに問題がないことを確認してください。

また [機能拡張マネージャ] コントロールパネルで「Mac OS すべて」などを選択し、システム標準以外の機能拡張類の使用を停止した状態で再起動してからインストールを行ってください。

CD-ROM内のReadMe(「お読みください」)ファイル

CD-ROM内に格納されているReadMeファイル(Macintosh版では「お読みください」)には、お買い求めいただいた製品をご使用いただくにあたっての重要な注意事項などが記載されています。インストールを開始される前に、必ずお読みいただくようお願いいたします。

サポート情報 & FAQ ナレッジベース

以下のURLで製品発売後サポートセンターへのお問い合わせが多かった内容等を公開しております。インストール前にぜひご参考なさってください。

注意 ただし製品発売直後は情報不足のため掲載のない場合もございます。予めご了承ください。

LiveUpdate 機能

LiveUpdate 機能とは

製品プログラムのアップデートや、Norton AntiVirusのような最新の定義ファイルが必要とする製品の「定義ファイル」のアップデートをインターネットを経由して簡単に行えるようにした機能です。

注意 LiveUpdateを利用するには、インターネットに接続する必要があります。

LiveUpdate の方法

- 1 シマンテック製品を起動させてください。
- 2 メイン画面から、LiveUpdate を選択して実行してください。

LiveUpdate のアンインストール

Windows 版の製品では LiveUpdate 機能をシマンテック製品間で共有しているため、製品のアンインストール機能を利用して自動的にアンインストールされません。LiveUpdate をアンインストールするには、Windows コントロールパネルの[アプリケーションの追加と削除]で LiveUpdate を選択して実行する必要があります。

定義ファイル

今回ご購入いただいた製品では、購入より1年間 LiveUpdate 機能による定義ファイルの無償更新を行うことができます。ただし2年目以降、定義ファイルの更新を行うには別途更新料(1年間有効)を支払いいただき、期間を延長していただく必要があります。

お申込み方法等については以下の URL を参照してください。

<http://shop.symantec.co.jp/>

Norton AntiVirus をご利用のお客様へ

既にコンピューターウイルスに感染している場合のインストール

インストール前にまずウイルススキャンを実行し、ウイルスに感染していないことを確認してからインストールを実行してください。アクティブなウイルスが見つかった場合には、インストールを実行する前にウイルスを除去してからインストールを実行してください(Norton SystemWorks等の Norton AntiVirus が含まれている製品をご使用の方も同様です)。

インストール前のウイルススキャンと除去方法

《Windows 版をご使用の方》

Norton AntiVirusはインストール時にメモリをウイルススキャンします。アクティブなウイルスが見つかった場合には、緊急用ディスクセットを作成し、ウイルスを除去してください。作成方法及び、ウイルス除去の方法につきましては、マニュアルの「インストール時のウイルス除去」を参照してください。

《Macintosh 版をご使用の方》

CD-ROM から Norton AntiVirus を起動してウイルススキャンを行ってください。可能であればNorton AntiVirusのCD-ROMから起動していただくことをお勧めします。CD-ROMからのウイルススキャンに関しては、マニュアルの「CDからの再起動とスキャン」を参照してください。

注意 ただしご使用の機種が発売時期の関係でCD-ROMに含まれるMac OSでは起動できない場合があります。

ウイルスの感染報告

ウイルスを発見したりウイルス情報を入手した場合、情報処理振興事業協会(IPA)への届け出が義務づけられています。この制度はコンピューターウイルス対策基準、平成7年7月7日付通商産業省告示第429号に基づいています。

コンピューターウイルス被害届出制度

ウイルスの被害を届け出るときには、CD-ROM内に格納されている「コンピューターウイルス被害届」(ファイル名: IPA.pdf)をご使用ください。1件の被害(感染、発病)につき1部を情報処理振興事業協会(IPA)宛にFAXまたは郵送してください。届け出られた内容は被害の拡大と再発の防止に活用しますが、記載されたプライバシーに関する情報が公表されることはありません。

コンピューターウイルスに関する問い合わせ、届け先は次のとおりです。

〒113-6591
東京都文京区本駒込2-28-8
文京グリーンコートセンターオフィス16階
情報処理振興事業協会(IPA)
セキュリティセンターウイルス対策室
FAX:03-5978-7518
E-mail:virus@ipa.go.jp

ウイルス定義ファイル

コンピュータウイルスは年々急増し、近年、MS-WordやMS-Excelなどで発病するマクロウイルスの被害が深刻化しています。これらのコンピュータウイルスなどを検知・駆除するには、最新のウイルス定義ファイルを入手する必要があります。LiveUpdate機能を利用して、常に最新のウイルス定義ファイルを入手し、ご使用ください。またご購入された製品に関しましては、1年間ウイルス定義ファイルを無償更新できます。2年目以降は有償となりますので、前述の「定義ファイルについて」をご参照ください。

Norton Utilities及びNorton SystemWorksをご利用のお客様へ (Windows版)

常駐プログラムの解除

常駐プログラムが動作した状態で[System Check] [Disk Doctor] [WinDoctor] [Speed Disk] [Optimization Wizard] をご使用になると思わぬトラブルが発生することがあります。

これらの機能を使用する前には、前述の「常駐プログラムの停止方法」に従って常駐プログラムを整理してからご使用いただくことをお勧めします。

索引

英字

ActiveX コントロール 2-2
Auto-Protect 2-2、5-4、6-1
 オンとオフの切り替え 5-5
 トラブルシューティング 7-3
Bloodhound 技術 6-1
CD
 緊急用ディスク 1-3
IO.SYS 4-7、4-8
Java アプレット 2-2
LiveReg
 削除 1-4
LiveUpdate 2-3、5-6
 削除 1-4
MSDOS.SYS 4-7、4-8
Norton AntiVirus
 アイコン 2-3、5-3、5-5
 アンインストール 1-4
 インストール 1-2
 カスタマイズ 6-6
 起動 2-3
 警告 4-1
 最新版の入手 5-6
 紹介 2-1
 使い方 6-1
 働き 5-2
 メインウィンドウ 2-4
Norton Zip 救済ディスクセット 3-1
 作成 3-2
SARC 4-3、4-8、6-4
Windows
 救済ディスクセット 3-1
Windows 95/98/Me
 救済ディスクセット 1-1
 セーフモード 7-3

Windows NT 3-1

 警告 4-2

ア行

アイコン
 システムトレイ 2-3、5-3、5-5
 デスクトップ 2-3
圧縮ファイル
 ウィルスの検出 2-2
アンインストール 1-4
イベント
 スケジュール 6-5
インストール 1-1
インターネット
 ウィルス 5-3
 有害なコード 2-2
ウィルス 5-1
 除去 1-3
 新種 5-5、7-4
 防止のヒント 5-3
 メモリ上 4-5
ウィルススキャン スキャンを参照
ウィルス定義 5-6
ウィルスらしい活動
 警告 4-6
ウィルスリスト 6-4
エラー
 基本救済ディスクセットのテスト 7-5
オプション
 Norton AntiVirus 6-6
 警告時 4-3
オペレーティングシステム
 複数のインストール 7-3

カ行

- 拡張子 4-7、7-4
- カスタマイズ 6-6
- 感染源 5-1
- 感染ファイル
 - 警告 4-4
 - 修復できない場合 4-7、7-4
- 起動
 - Norton AntiVirus 2-3
- 起動時スキャン 6-1
- 基本救済ディスクセット 3-1
 - テストのエラー 7-5
 - 作成 3-4
- 救済ディスクセット 3-1
 - 更新 3-5
 - 作成 1-1、3-2
 - 使い方 3-6
 - トラブルシューティング 7-1、7-2
- 緊急用ディスクセット 1-3
- 警告 4-1
- 検疫 2-3、4-8
 - レポート 6-4
- 更新
 - Norton AntiVirus 5-6
 - 救済ディスクセット 3-5
 - ウィルス定義 5-6
- コンピュータウィルス ウィルス を参照

サ行

- 削除
 - Norton AntiVirus 1-4
 - 感染ファイル 4-8
- 作成
 - 緊急用ディスクセット 1-3
- システムトレイ 2-3、5-3、5-5
- システムファイル 4-8
- 自動 LiveUpdate 2-3
- 修復できない場合の対処 4-7
- 手動スキャン 6-1
- 新機能 2-1
- 新種のウィルス 5-5、7-4
- スキャナ 6-1
- スキャン 6-1

- セーフモード 7-3
- 説明の表示ヘルプ 2-6
- 操作手順のヘルプ 2-6

タ行

- ダイアログボックスのヘルプ 2-5
- ダウンロードフォルダ 6-4
- 定時スキャン 5-3、6-1、6-4
- 電子メール
 - 受信ができない場合 7-6
 - 保護 6-3
- 電子メールスキャン 2-2、5-3、6-2
- [電子メールの状態(1)] ボタン 2-1
- ドライブ
 - スキャン 6-2
- ドライブ名の表記 vi
- トラブルシューティング 7-1
- トロイの木馬 5-2

ナ行

- ネットワークドライブ
 - 救済情報の保存先 3-4

ハ行

- パスワード
 - トラブルシューティング 7-5
- 表記 vi
- ブートシーケンス 7-2
- ブートレコード 4-8
- フロッピーディスク
 - 救済ディスクセット 3-2
 - スキャン 5-2
 - ブート可能 3-4
- ヘルプ 2-5
- ヘルプメニュー 2-7
- 保護
 - 電子メール 6-3

マ行

- マクロウィルス 5-1
- マスターブートレコード 4-8

メインウィンドウ

 Norton AntiVirus 2-4

メモリ上のウィルス 4-5

ヤ行

ユーザーがしなければならないこと 5-3

有害なコード 2-2

予防 5-1

ラ行

リムーバブルディスク 5-2

レポート 6-4

ワ行

ワーム 5-2

